長崎県埋蔵文化財センター調査報告書 第3集

長崎県埋蔵文化財調査年報18

［平成21年度調査分］

2011

長崎県教育委員会

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書 第３集

長崎県埋蔵文化財調査年報18

［平成21年度調査分］

２０１１

長崎県教育委員会

はじめに

埋蔵文化財とは、地域における先人の歴史や文化を反映するものであり、歴史的・文化的資産、地域的資産、教育的資産としての意義をもち、地域づくりやひとづくりに活用できる格好の財産といえます。

長崎県内には、国指定特別史跡「原の辻遺跡」をはじめ多くの埋蔵文化財があります。これらは、私たちが遠い先祖から受け継いできた貴重な文化遺産であり、地域の大切な財産として後世に保存・継承し、広く活用を図っていく必要があります。

しかしながら、埋蔵文化財は毎年のように公共事業や民間の開発行為などにより破壊されたり、消滅したりする危機に瀕しています。それに対して長崎県教育委員会では、埋蔵文化財保護を目的として事前に開発部局と協議を行い、事前の計画変更をお願いし、やむを得ず事業の変更ができない場合には記録保存のための発掘調査を実施しています。

また、平成22年1月に壱岐市に長崎県埋蔵文化財センターを新設し、本県埋蔵文化財保護行政のさらなる充実に努めているところです。

本書は、平成21年度に長崎県教育委員会が中心となって県下各地で実施した埋蔵文化財の発掘調査と遺跡の保護・保存・活用のための諸事業の概要を紹介するものです。

本書の刊行が、県内埋蔵文化財保護行政の更なる発展と、県民の皆様の埋蔵文化財への愛護意識の向上に貢献できますことを期待いたします。

平成23年3月31日

長崎県教育委員会教育長

寺　田　隆　士

例　言

1　本書は、長崎県における埋蔵文化財保護行政の現状と長崎県教育委員会が平成21年４月１日から平成22年３月31日までに実施した12ヶ所の発掘調査の概要を収録したものである。

2　各遺跡の調査概要中の位置図は、国土地理院発行の地図を使用し、［　］内は図幅名（地区名）を表している。

3　本書に掲載した遺跡には、県教育委員会が主体として試掘範囲確認調査および発掘調査を実施したもの、市町教育委員会による発掘調査を支援したものを含む。

4　各遺跡の調査担当者と調査概要の文責については、文末に記している。

5　本書の編集については、長崎県教育庁長崎県埋蔵文化財センターが行った。

本文目次

はじめに

1　長崎県の埋蔵文化財保護行政の現状
（１）本県における公共工事に伴う発掘調査の現状 …… 1
（２）本県の埋蔵文化財保存活用事業 …… 2
（３）佐世保文化財調査事務所の普及啓発事業 …… 6
（４）原の辻遺跡調査事務所の発掘調査事業と保存活用事業 …… 8
（５）長崎県埋蔵文化財センターの開設 …… 12

2　県内の発掘調査報告書一覧 …… 13

3　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧 …… 14

4　事業別発掘調査届出件数及び県市町別埋蔵文化財職員数の推移 …… 20

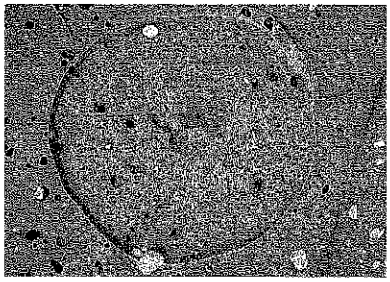
5　平成21年度の調査概要 …… 21
① 高城跡（隣接）
② 諫早家御屋敷跡
③ 諫早農業高校遺跡
④ 森岳城跡
⑤ 八幡山城跡
⑥ 中ノ瀬遺跡
⑦ 今福遺跡（範囲確認調査）
⑧ 今福遺跡（緊急発掘調査）
⑨ 武辺城跡
⑩ 辻ノ尾遺跡
⑪ 麻生瀬遺跡

1　長崎県の埋蔵文化財保護行政の現状

（1）本県における公共工事に伴う発掘調査の現状

近年、本県における大規模な公共工事に伴う埋蔵文化財の調査は、国交省道路関係事業から新幹線事業へと移行する状況にある。

平成14年度から実施されている西九州自動車道に伴う発掘調査については、平成21年度に佐世保～佐々間の調査が完了し、現在はその主体が松浦市に移っている。平成21年度に調査を実施した中ノ瀬遺跡では、松浦地区では初見である弥生時代中期の竪穴式住居跡が５棟検出した。また、その東側の丘陵部に立地する八幡山城跡では約8,300㎡の調査を実施し、そのうちの３箇所に切岸を確認している。今後、平成24年度を目途として松浦～伊万里間の調査が終了し、残りの佐々～松浦間については、今後路線が固まり次第分布調査等実施する予定である。



中ノ瀬遺跡２号住居跡

平成20年度に着工した九州新幹線西九州ルートに伴う調査は、今後本格化していく予定である。平成21年10月末に実施した分布調査により13遺跡26ヶ所（試掘10ヶ所・範囲確認調査13ヶ所・本調査３ヶ所）で事業着手前に調査が必要であることを確認している。特に、大村市内竹松遺跡周辺では新幹線の路線と同時に保守基地が予定されており、約２万㎡以上の面積を対象とする確認調査が必要となる。調査は用地買収の進捗に合わせて着手することとなるが、用地買収のピークが平成23～25年度であり、それに伴って発掘調査業務を本格的に実施する予定である。

平成21年度に県教委が実施した公共工事に伴う発掘調査としては、長崎県立諫早高等学校附属中学校棟建設工事に伴う諫早家御屋敷跡（新規発見）がある。元々諫早家御屋敷の絵図と校区内にある御書院の位置から遺跡があることは予想されていたが、試掘調査の結果、中世から近世にかけての遺構や遺物が確認され、工事に先立ち約350㎡の本調査を実施することとなった。その結果、中世の建物跡や溝、御役所跡の礎石・石積遺構などを確認している。そのほか、県立学校建設に伴い諫早農業高校遺跡、森岳城跡、辻ノ尾遺跡などの範囲確認調査を実施している。

近年の周知の埋蔵文化財包蔵地の中で行われる開発事業の実態として、小規模な開発行為が目立つ。これは遺跡の周知が浸透し、開発者側が埋蔵文化財を回避した場所で事業を計画する傾向があることが理由のひとつといえる。また、開発事業の内容についても大規模な掘削を伴う工事は減少し、盛土や新たな基礎工法などでほとんど掘削を伴わない工事が増加している。埋蔵文化財保護の見地からは非常に望ましい傾向といえるものの、逆に工事立会や慎重工事での対応が増加し、遺跡の本質や範囲が解明されないままそのとりまく環境が変化し、蝕まれていくことが危惧されている。史跡指定地はもちろんのこと、各市町における重要遺跡については、今後の開発行為に備えた遺跡の内容や範囲を確認する予備調査の実施が望まれるところである。

また、無届工事についても後を絶たない。平成19～20年度では確認されなかったものの、平成21年度では２件の無届工事を確認し厳重注意を行った。文化財保護部局と事業課との連絡不足が主な原因であり、県のみに限らず市町においても開発部局との定期的な連絡調整の場の必要性があると考えられる。

（２）本県の埋蔵文化財保存活用事業（平成21年度）

①　明日につなぐ埋蔵文化財人づくり事業

○開発部局・文化財保護部局担当者文化財基礎研修

目　的　(1) 開発部局担当者に文化財に対する理解を深めてもらい、その取り扱いについて具体的な情報を提供することにより、円滑な文化財行政を推進する。

(2) 文化財主管課担当者に基礎的な知識を習得する場を提供し、文化財の保護に関する基本的な考え方や事務手続きなどの理解を深めさせ資質の向上を図る。

期　日　平成21年５月15日（金）

場　所　長崎歴史文化博物館 ホール

参加者　・県及び市町開発部局担当者

・県及び市町文化財担当者（実務経験３年未満を主体）　計　52名

内　容　・文化財と文化財保護行政について

・埋蔵文化財包蔵地における開発に係る諸届について

・記念物指定区域内における現状変更等の諸届について

・事例発表「開発部局と文化財保護課との連携」

（雲仙市教育委員会　生涯学習課係長　辻田直人氏）

・埋蔵文化財の保護と活用

・補助金業務及び県・市町間の文化財行政事務の現状と課題

例年実施している文化財担当者会議（専門研修）は、「長崎県地域文化芸術振興プラン」事業として下記の内容で実施した。

事業名　『長崎県文化財サミット in 壱岐』

目　的　県内で民俗芸能の保存継承活動に取り組む団体、史跡・文化財のボランティアガイドや史談会・郷土史研究会など文化財の活用を通じ地域の活性化や文化財保護の活動に貢献している団体の代表者、中学校・高等学校で総合的な学習や特別活動を利用した郷土学習・郷土芸能・文化財の清掃等の保護活動の指導にあたる教員及び県市町教育委員会の文化財行政担当者等が一堂に会し、日頃の活動の成果について情報交換を行うとともに、県民により文化財に対する興味・関心を深めていただけるような効果的な文化財活用の取組について意見交換を行う機会を設け、今後県民が主体的に文化財の保護に取り組んでいただくための参考となる情報発信を行うことを目的とする。

期　日　平成21年11月22日（日）～23日（月・祝）

場　所　壱岐文化ホール大ホール

参加者　各市町文化財保護行政担当者、ボランティア団体、郷土史研究会など

約350名

内　容・講演会「学びと交流の場としての文化財」（久留米工業大学教授 大森洋子氏）

「史跡を活かしたまちづくり・ひとづくり」（関西外国語大学教授 佐古和枝氏）

・事例発表「伊丹市文化財愛護少年団の活動について」（伊丹市博物館館長 小長谷正治氏）

「一支国弥生まつりの取組について」（一支国弥生まつり実行委員長 吉田繁氏）

「郷土芸能の子どもたちへの継承活動について」

（白塔浮立保存会会長 早田強氏）

・パネルディスカッション

「『文化財愛』を育てる魅力ある公開・活用法」

コーディネーター 長崎国際大学教授　立平進氏

・分科会「文化財（建造物等の有形文化財及び史跡）の公開活用」

「子どもたちが文化財に親しむ機会の拡充」

「文化財サポーター制度の構築に向けて」

「郷土芸能の継承活動の活性化」

② 重要遺跡情報保存活用事業

○　長崎県中近世城館跡分布調査事業（平成21年度）

・悉皆調査

原城陣屋跡　6ヶ所

・詳細調査　【資料1】

諫早市かのう城跡・平松城跡、大村市城の尾城跡・伊賀峰城跡・壱岐市勝本城跡

生池城跡・高津城跡・帯田城跡・郡城跡・東彼杵町武留路山城跡

計　10ヶ所

・指導委員会

【第1回】［期日］平成21年8月25日（火）

［場所］交通産業ビル2階

［内容］・長崎県中近世城館跡分布調査報告書の作成について

・文化庁報告について

・平成21年度詳細調査報告について

【第2回】［期日］平成21年12月25日（金）

［場所］交通産業ビル2階

［内容］・長崎県中近世城館跡分布調査報告書の作成について

・文化庁報告について

・平成22年度事業について

・文化庁（三宅文化財調査官）指導

［期日］平成21年12月15日（火）～16日（水）

［場所］大村市三城城跡・玖島城跡・東彼杵町松岳城跡・佐世保市広田城跡

直谷城跡・平戸市館山・松浦市梶谷城跡

・調査報告会

【第１回】［期日］平成22年１月30日（土）

［場所］諫早市飯盛町 囲城跡・岡城跡

諫早市飯盛公民館

［内容］・現地見学会

・調査報告会

・講演会

（県文化振興課 大石一久氏）

【第２回】［期日］平成22年３月６日（土）

［場所］雲仙市鶴亀城跡

雲仙市神代小路歴史文化公園歴史民俗資料館

［内容］・現地見学会

・調査報告会

・講演会

（九州大学人間環境学研究院 木島孝之氏）

【資料１】

詳細調査一覧表

番号	城館名(別称)	指定	市　町　名	竪堀	空堀	堀切	土塁	石垣	櫓台	そ　の　他	調査年度
1	西高田城		西彼杵郡長与町			1	1	1		帯曲輪	H20
2	東高田城		西彼杵郡長与町			1				※西高田城との関連から測量	H20
3	日野江城	国	南島原市北有馬町		1			1	1	天守台	H22
4	原城	国	南島原市南有馬町					1		天守台	H22
5	松岳城		東彼杵郡東彼杵町					1	1		H18
6	大浦城(有家城･里坊城･川原城)		南島原市西有家町		1						H20
7	河原城(館)		東彼杵郡川棚町		1		1				H20(佐)
8	小峰城		東彼杵郡川棚町					1			H20(佐)
9	風南城		東彼杵郡川棚町	1	1	1	1				H20(佐)
10	福田城(福田古城)		長崎市			1	1	1			H20
11	鳥山城(十面城)		長崎市	1	1	1	1		1		H20
12	俵石城		長崎市	1	1		1	1		畝状竪堀	H22
13	高浜城(城山城)		長崎市高浜町	1	1	1	1			畝状竪堀	H20
14	太田和氏館	市	西海市西海町		1		1				H20
15	下り山城		西海市西海町	1	1	1		1			H20
16	八幡山城		西海市西彼町	1		1		1			H20
17	天狗山城		西海市西彼町		1		1			タコツボ状遺構?	H20
18	城の山古城(中山郷)		西海市西彼町	1		1		1			H20
19	権現岳城		諫早市小長井町		1	1	1				H20
20	古田城		諫早市高来町		1		1			土橋	H20
21	真崎城	市	諫早市		1	1	1	1			H20
22	かのう城		諫早市多良見町	1		1			1		H21
23	平松城		諫早市		1				1	※追加調査	H21
24	鶴亀城(神代城)		雲仙市国見町		1		1	1	1	※二の丸追加調査	H20
25	岡城(古部城)		雲仙市瑞穂町		1	1	1			虎口	H20
26	飯岳城(古城)		雲仙市千々石町				1	1		石塁	H20
27	松山城(金谷城)		東彼杵郡波佐見町	1	1	1	1		1		H20(佐)
28	城の尾城		大村市	1	1	1	1	1	1	畝状竪堀か?	H21
29	伊賀峰城		大村市			1	1	1	1		H21
30	玖島城		大村市		1		1	1	1		H22
31	三城城		大村市		1		1			※既存資料あり	
32	武留路山城		東彼杵郡東彼杵町					1		石塁	H21(佐)
33	囲城		諫早市飯盛町		1		1			土橋	H20
34	岡城		諫早市飯盛町	1		1	1				H18
35	勝本城	国	壱岐市勝本町		1			1		※搦手部追加調査	H21
36	生池城		壱岐市勝本町		1		1	1		土橋	H21
37	高津城		壱岐市勝本町		1		1			土橋	H21
38	帯田城		壱岐市郷ノ浦町		1		1	1		石塁	H21
39	郡城		壱岐市芦辺町		1		1				H21
40	金石城	国	対馬市厳原町					1		※既存資料あり	
41	撃方山城		対馬市上対馬町					1	1		H20
42	清水山城	国	対馬市厳原町	1				1		※既存資料あり	
43	勘次ヶ城(山崎の石塁)	県	五島市富江町					1			H20
44	嘯月園(吉久木町御茶園山)		五島市吉久木町					1			H20
45	石田城(石田陣屋･大値賀城)	県	五島市池田町					1		※既存資料あり	
46	殿山城		新上五島町		1	1	1				H20
47	大刀洗城		佐世保市		1		1				H19(佐)
48	指方城(佐志方城)		佐世保市			1		1			H19(佐)
49	広田城(牛盗城･牛ノ城)		佐世保市	1	1	1	1	1		※再調査	H19(佐)
50	塩浸城		佐世保市		1	1	1			武者溜まり?	H19(佐)
51	井手平城		佐世保市	1	1	1	1				H22(佐)
52	膳所城		北松浦郡小値賀町		1		1			※既存資料あり	
53	針尾城		佐世保市		1		1			※既存資料あり	
54	武辺城		佐世保市	1	1	1	1	1	1	※既存資料あり	
55	亀岡城跡		平戸市		1			1		※追加調査	H22(佐)
56	籠手田城		平戸市		1		1				H19
57	館山		平戸市		1		1				H19(佐)
58	簑坪城		平戸市			1		1	1	水手曲輪	H19
59	小富士城		平戸市					1			H19
60	上小林城(追加調査)		佐世保市			1	1				H19(佐)
61	直谷城	県	佐世保市吉井町		1	1	1		1	※既存資料あり	
62	松園屋敷		松浦市		1	1	1				H20(佐)
63	八幡山城		松浦市	1	1		1			土橋	H20(佐)
64	松浦党梶谷城	県	松浦市	1				1		※既存資料あり	
65	医王城		松浦市鷹島町	1	1		1			畝状竪堀	H20(佐)
66	東光寺山城		北松浦郡佐々町	1		1					H20(佐)
67	龍王城(野寄砦)		北松浦郡佐々町		1		1				H20(佐)
68	原城陣屋跡①		南島原市南有馬町								H22
69	原城陣屋跡②(鍋島陣屋跡)		南島原市南有馬町								H22
70	原城陣屋跡③(重箱山)		南島原市南有馬町								H22
71	原城陣屋跡④(牢屋跡)		南島原市南有馬町								H22
72	原城陣屋跡⑤		南島原市南有馬町								H22
73	原城陣屋跡⑥(鐘掛松)		南島原市南有馬町								H22

（3）佐世保文化財調査事務所の普及啓発事業

○県北地区市町教育委員会文化財担当者研修会

目　的　県北地区市町教育委員会文化財担当者が、埋蔵文化財保護行政に関する情報や有意な事例に触れる場を提供し、文化財保護実務を中心に講演・討議を行うことにより、専門的な資質の向上を図る。また、県北地区文化財保護行政担当者の相互連絡を密にすることにより県北地区の文化財保護行政の円滑な推進を図る。

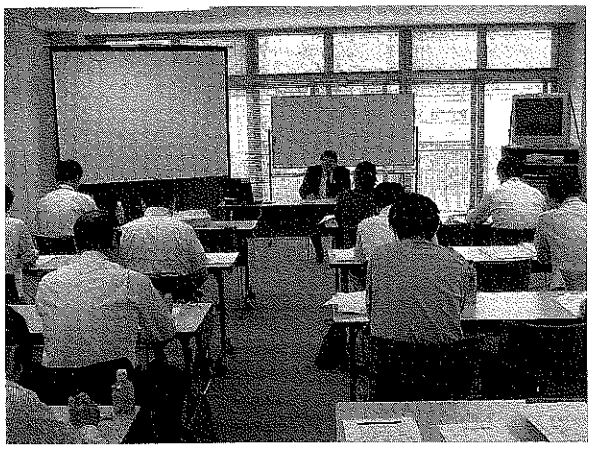
期　日　平成21年５月27日（水）

場　所　佐世保市山澄地区公民館（第１講座室）

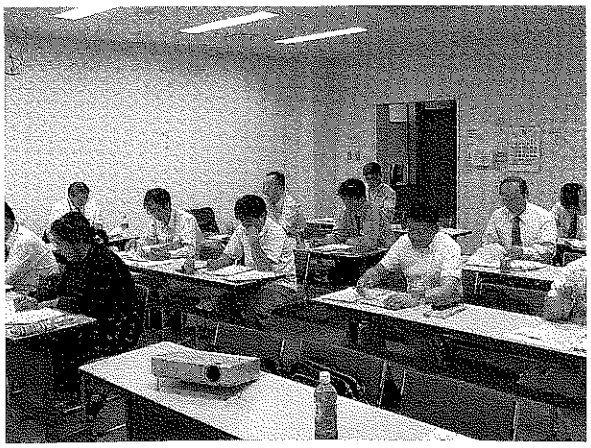
参加者　佐世保文化財調査事務所所管内市町教育委員会文化財担当者
（佐世保市・平戸市・松浦市・東彼杵町・川棚町・波佐見町・小値賀町・江迎町鹿町町・佐々町）

内　容　・講話　佐世保文化財調査事務所の事業概要および文化財保護行政について
・講演　「民間の諸開発に伴う事前協議等について」
（福岡市教育委員会文化財部　宮井善朗氏）
・講義　埋蔵文化財関係の届出等に関すること
・協議　平成21年度文化財関係事業概要について（各市町より）

本研修会は、県北地区市町教育委員会文化財担当者の資質向上と県・市町間および各市町間の連絡関係を密にするために、平成20年度より実施している。平成21年度は、民間の開発行為と埋蔵文化財保護の円滑な調整が求められる現状にかんがみ、新たな取り組みとして、福岡市教育委員会から宮井善朗氏を講師としてお招きし、福岡市における事前協議体制および今日的諸課題等について講演していただいた。



講話：文化財保護行政について



研　修　風　景

「中ノ瀬遺跡発掘調査現地説明会」について

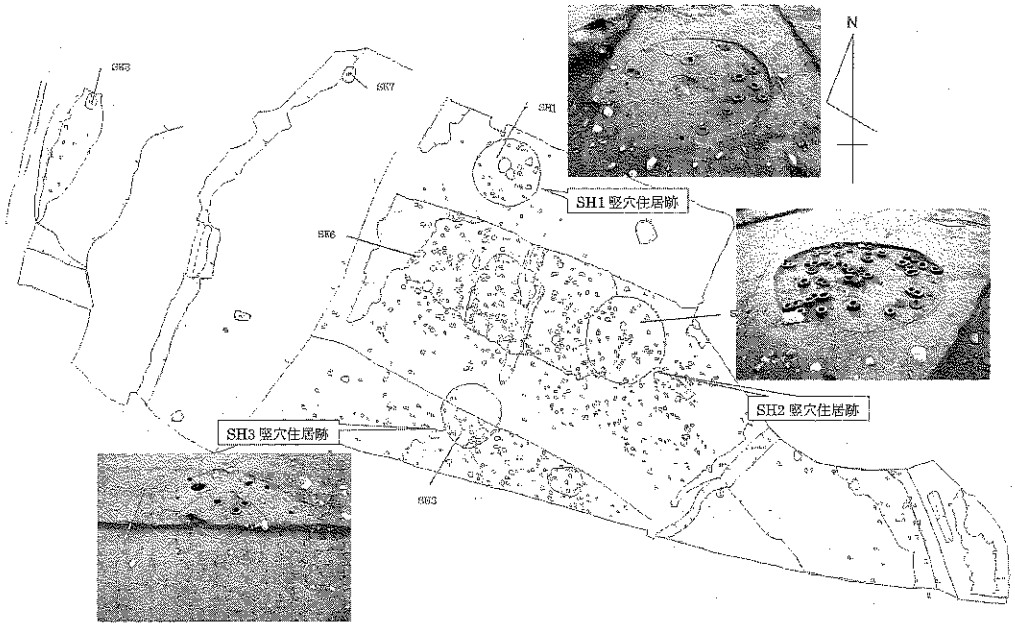
平成21年１月31日（日）の午後松浦市今福町所在の中ノ瀬遺跡で発掘調査現地説明会を実施した。これは佐世保文化財調査事務所が実施している西九州自動車道「伊万里松浦道路」建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（中ノ瀬遺跡・八幡山城跡・今福遺跡）の途中成果を広く知らせるためである。

現地説明会の様子

中ノ瀬遺跡は、縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代～中世、近世に至る複合遺跡であるが、主に弥生時代の円形竪穴住居跡３基、弥生時代～中・近世の多数の掘立柱建物跡や、中世の土壙墓４基（昨年度３基）、近世の土壙墓３基（昨年度１基）などの遺構が検出された。出土遺物は、縄文時代の土器、古代～中世の国産及び輸入陶磁器など１万点以上が出土している。

中ノ瀬遺跡発掘調査で竪穴住居跡が発見されたことは、更に住居群が南北丘陵に広がることが推測されることから、県北地域での拠点的な集落であった可能性が考えられる。

当日は約150人が現地を訪れて、「弥生時代人の墓は近くにないのか」や、「隣の八幡山城跡との関係は」など様々な質問が相次ぎ、集まった人々の関心の高さを伺わせた。



【現地説明会資料；遺構配置図】

（4）原の辻遺跡調査事務所の発掘調査事業と保存活用事業

原の辻遺跡は、弥生時代の国、集落の構造を解明するために極めて重要な遺跡として、平成12年11月24日に国の特別史跡に指定された。現在、文化庁の「史跡等総合活用推進事業」の補助事業を受け、壱岐市によって魏志倭人伝に記載された「一支国」の王都の復元整備が進められている。

平成22年３月14日には原の辻遺跡を一望する丘陵上に一支国博物館が開館し、それに先立つ１月１日に博物館に併設する長崎県埋蔵文化財センターが業務を開始した。県の埋蔵文化財センターが壱岐にできたことで、それまで原の辻遺跡調査事務所が行ってきた原の辻遺跡の発掘調査事業と保存活用事業は、長崎県埋蔵文化財センターが引き継ぐこととなった。

原の辻遺跡調査事務所が平成21年度に行った事業には、発掘調査事業と保存活用事業がある。発掘調査は、これまで行ってきた県道付け替えのための緊急調査が前年度で終了したために、重要遺構等の内容確認のための調査研究事業の範囲確認調査のみを実施した。保存活用事業では、原の辻遺跡を広く周知するための普及啓発事業として、原の辻遺跡保存等協議会主催の古代米づくり、一支国博物館の指定管理者である乃村工藝社主催の博物館ガイド（ボランティア）養成の事業等に協力・支援を行った。

1　発掘調査事業

平成21年度に事務所が実施した発掘調査は、国庫補助の「調査研究事業」である。調査は、丘陵西側低地部にあたる八反地区（500㎡）において平成21年10月１日から12月24日まで行った。この地区を含む丘陵西側低地部はこれまでの調査で、船着き場跡（八反地区），多重環濠（不條地区・八反地区）、弥生時代から古墳時代にかけての水田遺構やそれに関わると考えられる多数の溝等、丘陵部とは異なる場の利用が確認されている。前年度は、水田等の土地利用の解明を目指して、船着き場跡の南側に調査区を設けて発掘調査を行ったが、水田があったことを示す結果は表れなかった。そこで、丘陵部と平成20年度の調査区の中間部分に調査区を設定し、前年度確認できなかった水田に関わる遺構の検出を目的として調査を実施した。その結果、水田に関わる遺構は検出できなかったが、弥生時代中期～古墳時代初頭にかけての河川を１、弥生時代中期後葉の環濠１条とそれに架かる土橋１基、弥生時代後期の環濠１条、弥生時代の沼状の落ち込み２を確認した。土橋は、濠を作る際に掘り残して造られた土橋ではなく、濠が掘られた後に時間をおく間もなく埋め戻して造られた土橋であることが土層断面の観察より想定できる。労力を考えると無駄な造り方であるように思えるが、土橋の覆土中から１個体分の土器や砥石が出土したことから、何らかの意図があったものと思われる。類例の確認を急ぎたい。

2　保存活用事業

保存活用事業の目的は、県内外および島内市民に対して、広く「原の辻遺跡」の周知を行い、原の辻遺跡関連事業への理解を図っていくための事業である。

事業内容としては、展示のための遺物の保存処理、調査指導委員会の開催、九州北部三県姉妹遺跡連絡会議、体験学習活動、ホームページの活用、壱岐高等学校の「原の辻歴史文化コース」への支援、

市が実施している古代米づくり、博物館の指定管理者が行っている博物館ガイド養成などの支援を行った。

調査指導委員会は、西谷正（九州大学名誉教授・九州歴史資料館長）委員長をはじめ７名の委員からなり、発掘調査で検出された遺構の内容・性格や出土遺物についての助言・意義付け、遺跡の保存等についての指導を受ける会議である。平成21年度は11月６日に実施し、八反地区の遺構や今後の調査計画について指導検討をいただいた。また、11月７日には、壱岐市の調査現場と併せて現地説明会を実施した。

北部九州三県姉妹遺跡関係では、新たに「魏志倭人伝のクニグニネットワーク事業」が立ち上がり、関連する市町も参加したことで組織自体が拡大した。ここでは、共通するホームページやロゴの作成等について協議を行った。また、この事業へ参加する市町に対し、平成22年秋に開催予定の「国際シンポジウム」でのパネリストやレプリカ・パネル展等関連行事への参加要請を行った。

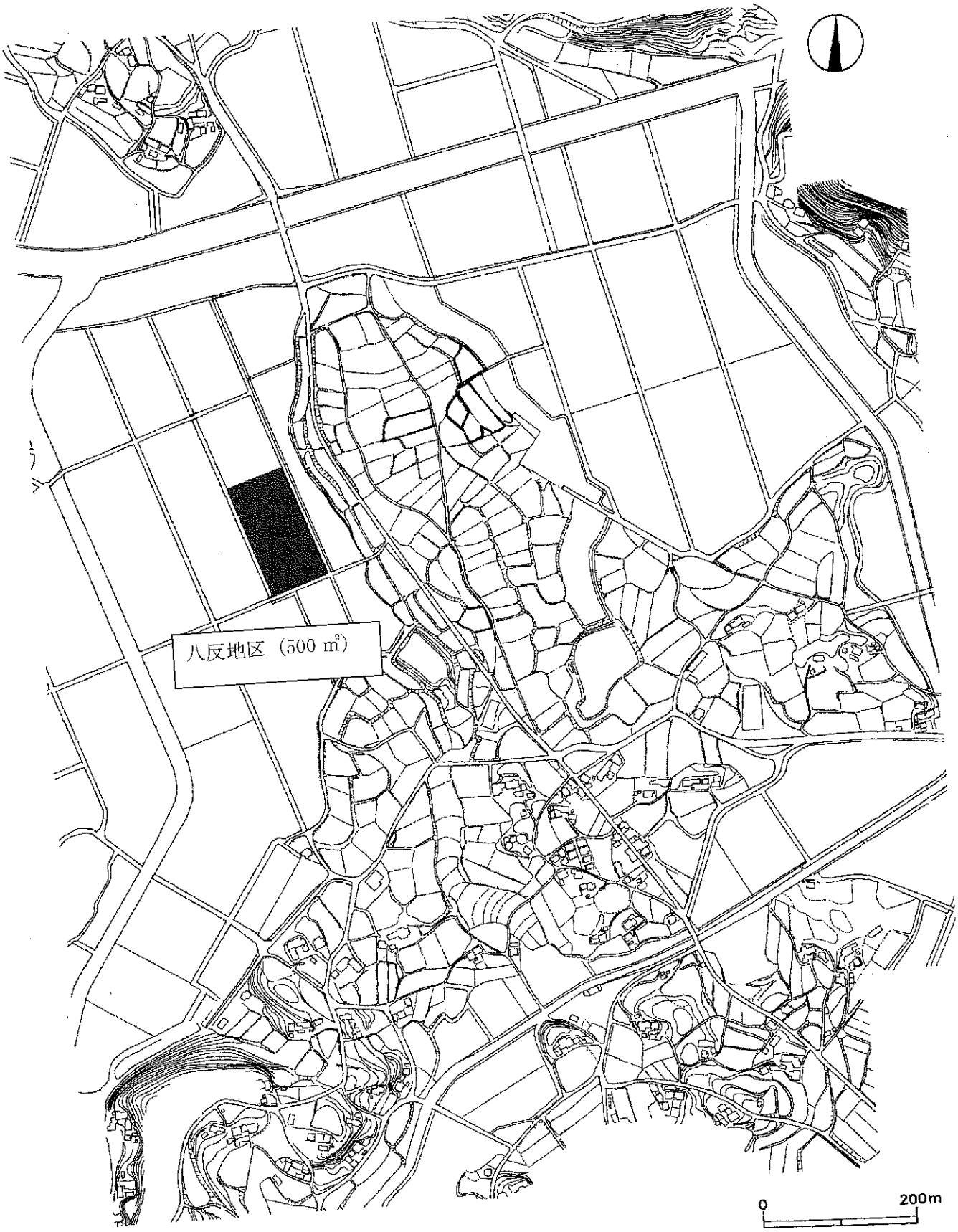
これまで通年で実施してきた体験活動は、調査事務所の建物から埋蔵文化財センターへの移転業務が夏以降入っていたために、６月までの実施となった。３ヶ月間の実施であったが、島内小中学校10校196名が参加した。なお、翌年度以降体験活動は、島内小中学生に対しては壱岐市教育委員会が、島外小中学生に対しては観光関係団体が行う計画である。

壱岐高等学校の「原の辻歴史文化コース」については、2年生の「考古学入門・生活文化史」の授業を支援している。授業内容としては、発掘・実測・土器や石器作りなどの実習と土器・石器・木製品・金属器など講座を事務所と遺跡で21回実施した。

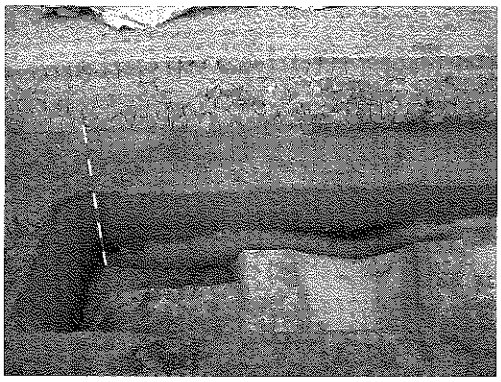
壱岐市の原の辻遺跡保存等協議会が行っている「古代米づくり」では、平成21年６月13日に田植え（参加者110名）、10月17日に稲刈り（参加者138名）、11月８日に原の辻ウォーク・収穫祭を実施した。原の辻ウォーク・収穫祭は今年度も盛況で参加者は603名であった。

ボランティアの原の辻サポーターは、ガイドと体験活動のグループに分かれ、本年度末開館する博物館のボランティアガイド養成を前述の乃村工藝社が受け持ち、基礎知識の習得から博物館での実際の説明体験まで１ヶ月に２回のペースで行った。子ども達の体験活動を支援する活動支援グループは、今年度も修学旅行などの大人数の体験活動の支援を行ったが、博物館開館へのプレイベントとして長崎歴史文化博物館や九州国立博物館へ出向き、勾玉作りや土器パズルなど来館者を対象にした体験の支援を通し博物館開館の情宣活動も行った。

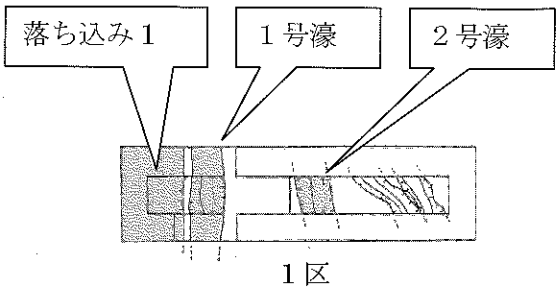
本年は、一支国博物館と埋蔵文化財センターがオープンした。埋蔵文化財センターは長崎県の埋蔵文化財保護行政の中心になるのはもちろんのこと、壱岐市と連携し国の特別史跡である「原の辻遺跡」の保存・活用にさらに力を注がなければならない。



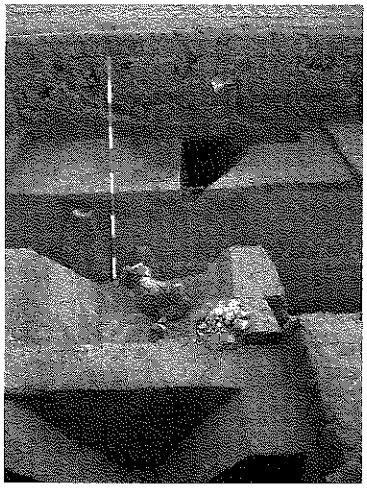
平成21年度　原の辻遺跡調査区位置図



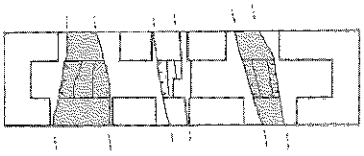
1号濠と落ち込み1



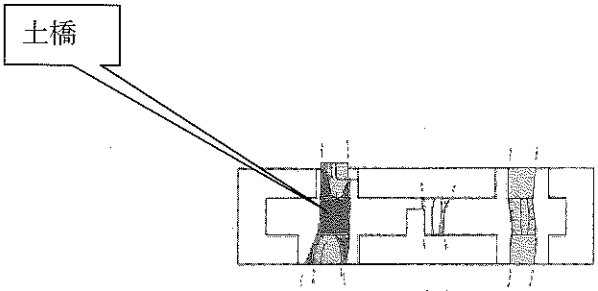
1区



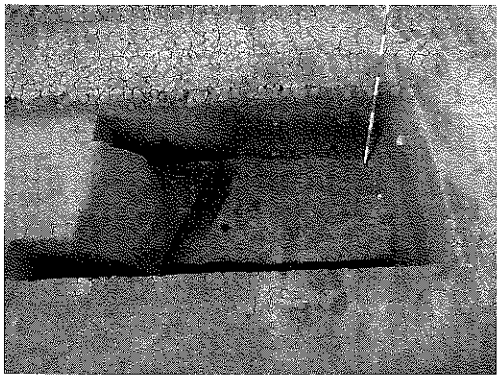
土橋と1号濠



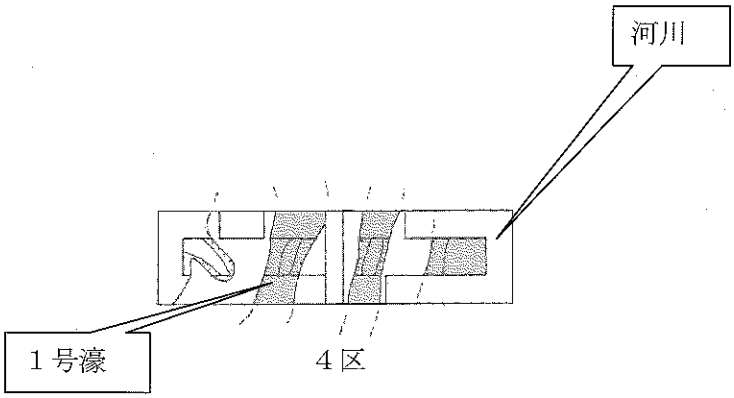
2区



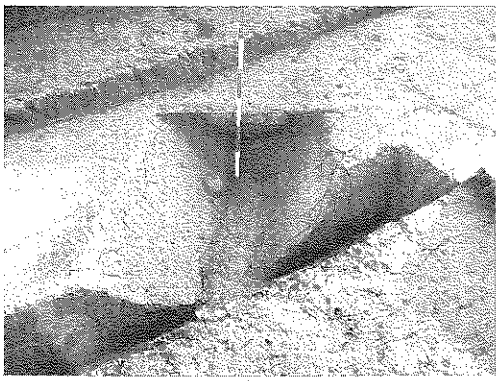
3区



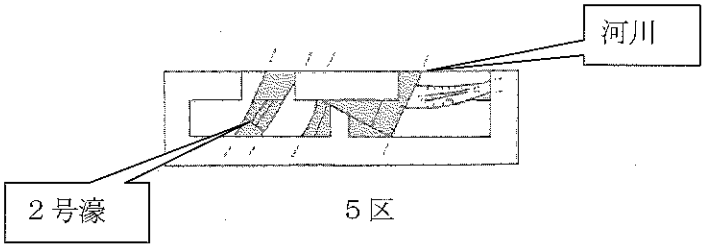
河川



4区



2号濠



5区

0　　20m

八反地区遺構配置図

（5）長崎県埋蔵文化財センターの開設

平成22年１月１日、国指定特別史跡・原の辻遺跡を南に望む丘の上に県の埋蔵文化財保護行政の中核を担う機関として長崎県埋蔵文化財センターが開館した。その開館にあたり、８月から原の辻遺跡調査事務所から当センターへの移転作業を行った。当センターは、原の辻遺跡をはじめとする県内遺跡の発掘や調査研究、最新の保存処理機器を用いて出土品の保存や収蔵保管を担う。また、本県が東アジア地域との交流という独特の歴史を辿ってきたということを考慮し、センター内に「東アジア考古学研究室」を設置したのも大きな特色である。当センターは一支国博物館と併設になっており、収蔵庫をガラス張りにして出土品を公開するオープン収蔵展示、子どもたちに考古学に親しんでもらうために「キッズこうこがく研究所」も運営している。平成22年３月14日の一支国博物館開館当日には、センター職員も開館行事に携わった。

2　県内の発掘調査報告書一覧（平成21年度刊行）

番号	報　告　書　名	発行機関
1	黒丸遺跡Ⅳ　（長崎県文化財調査報告書第204集）	長崎県教育委員会
2	長崎県埋蔵文化財調査年報17［平成20年度調査分］（長崎県文化財調査報告書第205集）	長崎県教育委員会
3	長崎県中近世城館跡分布調査報告書Ⅰ　地名表・分布地図編（長崎県文化財調査報告書第206集）	長崎県教育委員会
4	門前遺跡Ⅲ・武辺城跡Ⅱ　（長崎県佐世保文化財調査事務所調査報告書第５集）	長崎県教育委員会
5	芝原Ｂ遺跡	長崎市教育委員会
6	興善町遺跡	長崎市教育委員会
7	国指定史跡　出島和蘭商館跡　（第１・２分冊）	長崎市教育委員会
8	佐世保の洞窟遺跡Ⅱ　（佐世保市文化財調査報告書第３集）	佐世保市教育委員会
9	市内遺跡発掘調査報告書　（佐世保市文化財調査報告書第４集）	佐世保市教育委員会
10	中前後谷遺跡　（諫早市文化財調査報告書第24集）	諫早市教育委員会
11	市内遺跡発掘調査報告書Ⅸ　（平戸市の文化財64）	平戸市教育委員会
12	史跡平戸和蘭商館跡の発掘調査ⅩⅢ　（平戸市の文化財65）	平戸市教育委員会
13	旧金石城庭園　（対馬市文化財調査報告書第６集）	対馬市教育委員会
14	車出遺跡　（壱岐市文化財調査報告書第15集）	壱岐市教育委員会
15	守山大塚古墳　（雲仙市文化財調査報告書第７集）	雲仙市教育委員会
16	伊古遺跡Ⅲ　（雲仙市文化財調査報告書８集）	雲仙市教育委員会
17	鶴亀城（神代城）遺跡　（雲仙市文化財調査報告書第９集）	雲仙市教育委員会
18	三本松遺跡　木場製鉄遺跡　（南島原市文化財調査報告書第２集）	南島原市教育委員会
19	原山新田遺跡　（南島原市文化財調査報告書第３集）	南島原市教育委員会
20	原城跡Ⅳ　（南島原市文化財調査報告書第４集）	南島原市教育委員会
21	麻生瀬遺跡Ⅱ　（川棚町文化財調査報告書第２集）	川棚町教育委員会

3　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧

長崎県文化財調査報告書

発行年	報　告　書　名	収　録　遺　跡	集番号
1962	『長崎県遺跡地名表－埋蔵文化財包蔵地一覧－』		第1集
1964	『五島遺跡調査報告』	岐宿貝塚・大浜遺跡・三井楽貝塚	第2集
1965	『民俗資料調査報告書』		第3集
1966	『福井洞穴調査報告（図録編）』	福井洞穴	第4集
1967	『深堀遺跡』	深堀遺跡	第5集
1968	『男女群島特別調査報告書』		第6集
1968	『宮下遺跡調査報告（図録編）』	宮下遺跡	第7集
1969	『対馬』	佐保シゲノダン・唐崎遺跡	第8集
1971	『宮下遺跡調査報告（解説編）』	宮下遺跡	第9集
1971	『堂崎遺跡調査報告書』	堂崎遺跡	第10集
1972	『有明海沿岸地区の民俗』		第11集
1972	『長崎県の民家』		第12集
1972	『対馬西岸阿連・志多留の民俗』		第13集
1973	『里田原遺跡（図録）』	里田原遺跡	第14集
1974	『下五島貝津・大串の民俗』		第15集
1974	『対馬の文化財』		第16集
1974	『対馬　－浅茅湾とその周辺の考古学調査－』	弘法浦遺跡・平野浦遺跡・小式崎遺跡・島山赤碕遺跡・玉調浦五次郎遺跡・矢取崎東方岬遺跡・玉調浦遺跡・白蓮江第1遺跡・白蓮江第2遺跡・大船越西の神様鼻遺跡・菜畑遺跡・玉調ハナデンポ遺跡・芦ヶ浦第1洞穴・芦ヶ浦第2洞穴・海落遺跡・竹崎遺跡・仁兵衛島遺跡・貝鮒崎古墳・スス浦崎遺跡・貝口寺浦崎遺跡・佐保浦赤崎遺跡・黒木南鼻遺跡・ハロウ遺跡・観音鼻遺跡・西加藤遺跡・貝口赤崎遺跡・唐州加志々遺跡・佐保ワキノサエ遺跡・東の浜遺跡・糠ノ浜遺跡・キロスガ浜遺跡・天神山遺跡・鐘掛崎遺跡・佐保浦唐船遺跡・下ガヤノキ遺跡・チゴノハナ遺跡・木坂カナクエ遺跡・小姓島遺跡・椎ノ浦遺跡・タカマツノダン遺跡・サカドウ遺跡・エーガ崎遺跡・井手遺跡・吉田遺跡・塔ノ首石棺群	第17集
1974	『里田原遺跡（略報Ⅱ）』	里田原遺跡	第18集
	『壱岐の文化財』		第19集
1975	『対馬の遺跡』	住吉平貝塚・トウトゴ山墳墓群・吉田貝塚	第20集
1975	『里田原遺跡』	里田原遺跡	第21集
	『下五島の文化財』		第22集
1976	『長崎県民俗地図』		第23集
1976	『諫早北バイパス関係埋蔵文化財調査報告第Ⅰ集(図録編)』	峰ノ原遺跡	第24集
1976	『里田原遺跡』	里田原遺跡	第25集
1976	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第26集
1977	『西彼杵半島猪垣分布調査』		第27集
1977	『平戸市野子地域の民俗・福島町土谷の民俗』		第28集
1977	『長崎県のカトリック教会』		第29集
1977	『旧島原藩薬園跡環境整備報告』		第30集
1977	『原の辻遺跡（Ⅱ）』	原の辻遺跡	第31集
1977	『里田原遺跡』	里田原遺跡	第32集
1977	『金石城緊急発掘調査報告書』	金石城	第33集
	『長崎県の民俗芸能・民謡』		第34集
1978	『長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅰ』	柿の本古墳・小野古墳・久津石棺群・遠目塚遺跡	第35集

1978	『世知原町開作免の民俗』		第36集
1978	『原の辻遺跡（Ⅲ）』	原の辻遺跡	第37集
1978	『里田原遺跡』	里田原遺跡	第38集
1979	『日蘭関係資料』		第39集
1979	『平戸・上五島地区の文化財』		第40集
1979	『長崎県の民俗芸能・民謡』		第41集
1979	『長崎県の海女』		第42集
1979	『長崎県の民俗芸能・民謡』		第43集
1979	『松浦市とその周辺の文化財』		第44集
1979	『長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅱ』	源貞遺跡・妙法塚遺跡・浜泊遺跡・大堂遺跡・憩場遺跡	第45集
1980	『大村湾の漁労習俗』		第46集
1980	『長崎県の民俗芸能・民謡』		第47集
1980	『キリシタン関係資料』		第48集
1980	『佐世保市とその周辺の文化財』		第49集
1980	『長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅲ』	殿寺遺跡・ひさご塚古墳・鬼の穴古墳・野田古墳・唐比塔ノ本遺跡	第50集
1980	『串島遺跡』	串島遺跡	第51集
1980	『ケイマンゴー遺跡』	ケイマンゴー遺跡	第52集
1981	『長崎県の民俗芸能・民謡』		第52a集
1981	『諫早・大村・高来郡の文化財		第53集
1981	『九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅰ』	六郎平遺跡・迫ノ山遺跡・中嶋遺跡・下稲　川内遺跡・針尾遺跡・石原遺跡・向木場遺跡・雀ノ倉遺跡・柿崎遺跡・浜田遺跡	第54集
1981	『長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅳ』	田崎遺跡・五反田遺跡・山角遺跡	第55集
1982	『九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅱ』	東平遺跡・後谷遺跡・牛込Ａ遺跡・牛込Ｂ遺跡	第56集
1982	『長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅴ』	鰐川貝塚・長戸古墳・丸尾古墳・開遺跡	第57集
1982	『堂崎遺跡　－長崎県有家町所在の海中干潟遺跡－』	堂崎遺跡	第58集
1982	『島原・南高の文化財』		第59集
1982	『針尾人崎遺跡』	針尾人崎遺跡	第60集
1982	『長崎唐寺関係所蔵品目録』		第61集
1982	『長崎・西彼の文化財		第62集
1983	『橘湾の漁労習俗		第63集
1983	『九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅲ』	西輪久道遺跡・上長尾遺跡・鵜石遺跡・桜Ａ遺跡・桜Ｂ遺跡・上水計遺跡	第64集
1983	『諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅰ』	平遺跡・長牟田遺跡	第65集
1983	『長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅵ』	宇久松原遺跡	第66集
1984	『長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅶ』	小原下遺跡	第67集
1984	『今福遺跡Ⅰ』	今福遺跡	第68集
1984	『九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅳ』	鬼石Ａ遺跡・鬼石Ｂ遺跡・鳥越遺跡・岩下遺跡	第69集
1985	『長崎県の農具調査』		第70集
1985	『名切遺跡』	名切遺跡	第71集
1985	『九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅴ』	嶽ノ下Ａ遺跡・嶽ノ下Ｂ遺跡・芝原遺跡・中里遺跡・平木場遺跡	第72集
1985	『西ノ角遺跡』	西ノ角遺跡	第73集
1986	『諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅱ』	西輪久道遺跡	第74集
1985	『長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅷ』	小栗Ｂ遺跡・帆崎遺跡	第75集
1985	『楼楷田遺跡』	楼楷田遺跡	第76集
1985	『今福遺跡Ⅱ』	今福遺跡	第77集

1985	『百花台遺跡』	百花台遺跡	第78集
1985	『長崎県の近世社寺』		第79集
1986	『長崎県の農具調査』		第80集
1986	『上原遺跡』	上原遺跡	第81集
1986	『長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅸ』	つぐめのはな遺跡	第82集
1986	『殿崎遺跡』	殿崎遺跡	第83集
1986	『今福遺跡Ⅲ』	今福遺跡	第84集
1986	『諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅲ』	鷹野遺跡	第85集
1987	『長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅹ』	前目遺跡・白岳遺跡・一野遺跡	第86集
1987	『長崎県遺跡地図』		第87集
1987	『長崎県の民謡』		第88集
1987	『温泉岳保存管理計画策定書』		第89集
1988	『中道壇遺跡』	中道壇遺跡	第90集
1988	『長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅠ』	松尾遺跡・大久保遺跡	第91集
1988	『百花台広域公園建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』	百花台遺跡	第92集
1989	『九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅵ』	野田古墳・東光寺遺跡・野中墓地・野中遺跡　・宮田A遺跡・名切A遺跡・名切D遺跡・松山A遺跡	第93集
1989	『長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅡ』	大屋敷遺跡・三代遺跡	第94集
1989	『魚洗川B遺跡』	魚洗川B遺跡	第95集
1990	『長崎県の諸職調査』		第96集
1990	『長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅢ』	肥賀太郎遺跡・七腕遺跡・平川原池遺跡・唐比北森ノ木遺跡	第97集
1990	『九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅶ』	葛城遺跡・野田A遺跡・野田B遺跡・野田の久保遺跡・長石遺跡・外園遺跡	第98集
1991	『九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅷ』	坂口館遺跡・上八竜遺跡・里郷遺跡・大久保遺跡・小薗城跡	第99集
1991	『礫石原遺跡』	礫石原遺跡	第100集
1991	『長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅣ』	原の辻遺跡・尾崎貝塚	第101集
1991	『対馬天然記念物実態調査報告書』		第102集
1991	『長崎県天然記念物実態調査報告書』		第103集
1992	『長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅤ』	夫婦石遺跡・大根坂遺跡	第104集
1992	『上大垣遺跡』	上大垣遺跡	第105集
1992	『県内古墳詳細分布調査報告書』	出居塚古墳・掛木古墳・百合畑古墳・笹塚古墳・双六古墳・対馬塚古墳・覩上山古墳・大原天神の森古墳・岳崎古墳・守山大塚古墳	第106集
1992	『大陸渡来文物緊急調査報告』		第107集
1993	『長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅥ』	畑中遺跡・上松高野遺跡・西鬼塚石棺	第108集
1993	『県内重要遺跡範囲確認調査報告書』	宮下貝塚・脇岬遺跡・大門遺跡	第109集
1994	『長崎県遺跡地図　－長崎市・諫早市・大村市・西彼杵郡・北高来郡地区－』		第110集
1994	『長崎県遺跡地図　－島原市・南高来郡地区－』		第111集
1994	『長崎県遺跡地図　－壱岐地区－』		第112集
1994	『長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅰ』		第113集
1994	『県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅱ』	白浜貝塚・天久保遺跡・筏遺跡	第114集
1994	『中木場遺跡』	中木場遺跡	第115集
1994	『県道国見雲仙線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』	百花台遺跡	第116集
1995	『長崎県遺跡地図　－福江市・南松浦郡地区－』		第117集
1995	『長崎県遺跡地図　－対馬地区－』		第118集
1995	『長崎県遺跡地図　－佐世保市・平戸市・松浦市・北松浦郡・東彼杵郡地区－』		第119集

1995	『長崎県の民俗芸能』		第120集
1995	『長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅱ』		第121集
1995	『県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅲ』	永瀬貝塚・杉峰城跡・名切遺跡	第122集
1995	『万才町遺跡』	万才町遺跡	第123集
1995	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第124集
1996	『長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅲ』		第125集
1996	『伊木力遺跡Ⅰ』		第126集
1996	『黒丸遺跡Ⅰ－都市計画道路杭出津・松原線改良工事に伴う発掘調査報告書－』	黒丸遺跡	第127集
1996	『中木場遺跡Ⅱ』	中木場遺跡	第128集
1996	『中木場遺跡Ⅲ』	中木場遺跡	第129集
1996	『県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅳ』	原の辻遺跡・宇久松原遺跡・浜郷遺跡	第130集
1997	『長崎奉行所関係文書調査報告』		第131集
1997	『黒丸遺跡Ⅱ－都市計画道路杭出津・松原線改良工事に伴う発掘調査報告書－』	黒丸遺跡	第132集
1997	『県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅴ』	中島遺跡・五万長者遺跡	第133集
1997	『伊木力遺跡Ⅱ』	伊木力遺跡	第134集
1997	『長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅳ』		第135集
1997	『稗田原遺跡Ⅰ』	稗田原遺跡	第136集
1997	『広平遺跡』	広平遺跡	第137集
1997	『桟原城跡』	桟原城跡	第138集
1997	『石田城跡』	石田城跡	第139集
1998	『長崎県の近代化遺産』		第140集
1998	『大浜遺跡』	大浜遺跡	第141集
1998	『蒲河遺跡』	蒲河遺跡	第142集
1998	『沖城跡－諫早南部５期地区農免農道整備に伴う緊急発掘調査報告書－』	沖城跡	第143集
1998	『桜町遺跡』	桜町遺跡	第144集
1998	『稗田原遺跡Ⅱ』	稗田原遺跡	第145集
1998	『長崎奉行所（立山役所）跡』	長崎奉行所（立山役所）跡	第146集
1998	『県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅰ』	原山支石墓群・越高浜遺跡・狸山支石墓周辺	第147集
1998	『長崎県埋蔵文化財調査年報５』		第148集
1998	『馬乗石遺跡』	馬乗石遺跡	第149集
1999	『長崎県埋蔵文化財調査年報６		第150集
1999	『県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅱ』	岳崎古墳・山の寺梶木遺跡	第151集
1999	『稗田原遺跡Ⅲ』	稗田原遺跡	第152集
1999	『長崎県のカクレキリシタン』		第153集
2000	『長崎街道』		第154集
2000	『長崎県埋蔵文化財調査年報７』		第155集
2000	『県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅲ』	景華園遺跡・妙泉寺古墳群	第156集
2000	『稗田原遺跡Ⅳ』	稗田原遺跡	第157集
2001	『長崎県埋蔵文化財調査年報８』		第158集
2001	『県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅳ』	一野遺跡・桐古里遺跡	第159集
2001	『平野遺跡』	平野遺跡	第160集
2001	『稗田原遺跡Ⅴ』	稗田原遺跡	第161集
2001	『栄町遺跡』	栄町遺跡	第162集
2001	『石田城跡Ⅱ』	石田城跡	第163集
2002	『長崎県埋蔵文化財調査年報９』		第164集
2002	『県内主要遺跡内容確認調査報告書　Ⅴ』	長崎鼻遺跡・礫石原遺跡	第165集
2002	『森岳城跡』	森岳城跡	第166集
2002	『玖島城跡』	玖島城跡	第167集
2002	『千里ヶ浜遺跡』	千里ヶ浜遺跡	第168集
2002	『歴史の道整備推進事業』		第169集

2002	『長崎県の祭り』		第170集
2003	『長崎県埋蔵文化財調査年報10』		第171集
2003	『県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅵ』	オテカタ遺跡・水崎（仮宿）遺跡	第172集
2003	『森岳城跡Ⅱ』	森岳城跡	第173集
2003	『供養川遺跡』	供養川遺跡	第174集
2004	『長崎県埋蔵文化財調査年報11』		第175集
2004	『地域拠点遺跡内容確認発掘調査報告書Ⅰ』	小ヶ倉Ｂ遺跡・大野原遺跡・畑中遺跡	第176集
2004	『長崎奉行所（立山役所）跡　炉粕町遺跡』	長崎奉行所（立山役所）跡　炉粕町遺跡	第177集
2004	『今屋敷家老敷跡』	今屋敷家老敷跡	第178集
2004	『下木場遺跡』	下木場遺跡	第179集
2004	『日蘭関係資料Ⅱ』		第180集
2004	『長崎県の近代和風建築』		第181集
2005	『長崎県埋蔵文化財調査年報12』		第182集
2005	『長崎奉行所（立山役所）跡　岩原目付屋敷跡　炉粕町遺跡』	長崎奉行所（立山役所）跡　岩原目付屋敷跡　炉粕町遺跡	第183集
2005	『出島』	出島	第184集
2005	『地域拠点遺跡内容確認発掘調査報告書Ⅱ』	上篠原遺跡・カラカミ遺跡・橘遺跡	第185集
2005	『小野Ｆ遺跡』	小野Ｆ遺跡	第186集
2006	『長崎県埋蔵文化財調査年報13』		第187集
2006	『地域拠点遺跡内容確認発掘調査報告書　Ⅲ』	浜郷遺跡・魚洗川Ｂ遺跡	第188集
2006	『肥賀太郎遺跡』	肥賀太郎遺跡	第189集
2006	『門前遺跡』	門前遺跡	第190集
2007	『長崎県埋蔵文化財調査年報14』		第191集
2007	『万才町遺跡Ⅱ』	万才町遺跡	第192集
2007	『開遺跡Ⅱ』	開遺跡	第193集
2007	『稗田原遺跡Ⅵ・下宮遺跡』	稗田原遺跡・下宮遺跡	第194集
2007	『小野条里遺跡』	小野条里遺跡	第195集
2008	『長崎県埋蔵文化財調査年報15』		第196集
2008	『刎木城跡』	刎木城跡	第197集
2008	『稗田原遺跡Ⅶ』	稗田原遺跡	第198集
2008	『魚洗川Ｂ遺跡Ⅱ』	魚洗川Ｂ遺跡	第199集
2009	『対馬宗家文庫史料一紙物目録（３分冊）』		第200集
2009	『黒丸遺跡Ⅲ』	黒丸遺跡	第201集
2009	魚洗川Ｂ遺跡Ⅲ	魚洗川Ｂ遺跡	第202集
2009	『長崎県埋蔵文化財調査年報16』	刎木城跡・魚洗川Ｂ遺跡・稗田原遺跡・黒丸遺跡・森岳城跡・門前遺跡・武辺城跡	第203集
2010	『黒丸遺跡Ⅳ』	黒丸遺跡	第204集
2010	『長崎県埋蔵文化財調査年報17』	魚洗川Ｂ遺跡・黒丸遺跡・守山条里跡・奈摩の館跡・奉還遺跡・草木原第３石鍋製作遺跡・中ノ瀬遺跡・八幡山城跡・亀岡城跡・白岳池周辺遺跡・稗田窯跡	第205集
2010	長崎県中近世城館跡分布調査報告書Ⅰ		第206集

原の辻遺跡調査事務所調査報告書

発行年	報　告　書　名	収　録　遺　跡	集番号
1997	『原の辻・安国寺前Ａ・安国寺前Ｂ遺跡』	原の辻・安国寺前Ａ・安国寺前Ｂ遺跡	第１集
1997	『百合畑・山ノ神古墳・壱岐氏居館跡』	百合畑・山ノ神古墳・壱岐氏居館跡	第２集
1997	『覩城跡』	覩城跡	第３集
1998	『原の辻・鶴田遺跡』	原の辻・鶴田遺跡	第４集
1998	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第５集
1998	『鶴田遺跡』	鶴田遺跡	第６集
1998	『興触遺跡』	興触遺跡	第７集

1998	『車出遺跡』	車出遺跡	第８集
1998	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第９集
1998	『鶴田遺跡』	鶴田遺跡	第10集
1999	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第11集
1999	『興触遺跡・興触川上遺跡』	興触遺跡・興触川上遺跡	第12集
1999	『興触川上遺跡』	興触川上遺跡	第13集
1999	『大宝遺跡』	大宝遺跡	第14集
1999	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第15集
1999	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第16集
1999	『閨繰遺跡』	閨繰遺跡	第17集
2000	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第18集
2000	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第19集
2000	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第20集
2001	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第21集
2001	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第22集
2001	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第23集
2002	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第24集
2002	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第25集
2003	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第26集
2003	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第27集
2004	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第28集
2005	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第29集
2005	『原の辻遺跡　総集編Ⅰ』	原の辻遺跡	第30集
2005	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第31集
2006	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第32集
2006	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第33集
2007	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第34集
2007	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第35集
2007	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第36集
2008	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第37集
2008	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第38集
2009	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第39集
2009	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第40集

佐世保文化財調査事務所調査報告書

発行年	報　告　書　名	収　録　遺　跡	集番号
2008	九州文化学園構内遺跡	九州文化学園構内遺跡	第１集
2008	武辺城跡・末永遺跡	武辺城跡・末永遺跡	第２集
2008	竹辺Ｃ遺跡・竹辺Ｄ遺跡	竹辺Ｃ遺跡・竹辺Ｄ遺跡	第３集
2008	門前遺跡Ⅱ	門前遺跡	第４集
2010	門前遺跡Ⅲ・武辺城跡Ⅱ	門前遺跡・武辺城跡	第５集

4　事業別発掘調査届出件数及び県市町別埋蔵文化財職員数の推移

○ 事業別発掘調査届出（99条関係）件数の推移

		平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
緊急調査	道路	12	13	13	10	5	7
	河川	1	0	1	2	1	1
	学校	0	0	0	0	0	1
	住宅・宅地造成	4	4	3	6	4	0
	工場	0	0	2	0	2	1
	店舗等	1	1	0	2	0	0
	その他の建物	4	3	1	3	2	2
	土地区画整理	0	0	2	2	0	0
	公園造成	0	0	1	4	1	0
	観光開発	0	0	0	0	0	0
	ガス等	2	0	0	0	1	0
	農業関係	9	6	6	7	5	4
	その他の開発	1	0	1	0	1	1
	自然崩壊	1	0	0	1	1	0
	遺跡地図作製等	0	0	0	0	0	0
	保存目的	24	19	7	7	7	0※
	遺跡整備	2	0	0	0	0	0※
学術・研究		3	1	1	0	1	0
合計		64	47	38	44	31	17

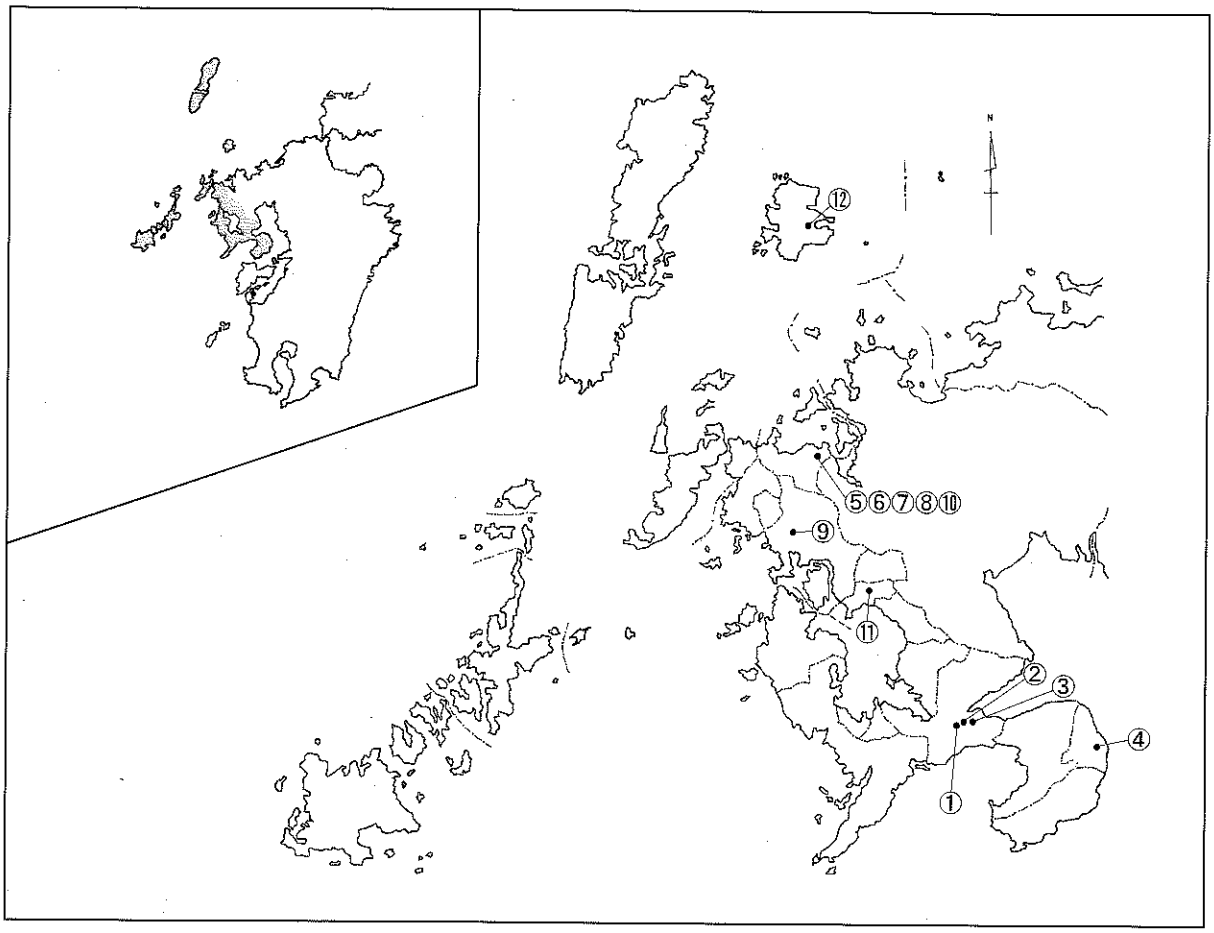
※保存目的の範囲確認調査は12件、遺跡整備に伴う範囲確認調査は５件

○ 県及び市町埋蔵文化財担当者職員数の推移［平成20年度の市町は文化財担当者数を含む］

（　　）は嘱託数

	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
県	22(13)	22(17)	23(17)	18(12)	17(16)	15(19)
市町	42(10)	46(10)	46(10)	35(8)	71(9)	48(15)

5　平成21年度の調査概要



県内遺跡位置図

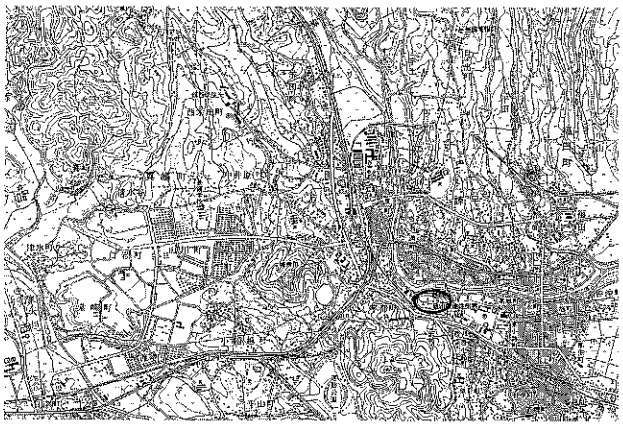
遺　跡　名	所在地	遺　跡　名	所在地
①　高城跡（隣接）	諫早市	⑦　今福遺跡(範囲確認調査)	松浦市
②　諫早家御屋敷跡	諫早市	⑧　今福遺跡(緊急発掘調査)	松浦市
③　諫早農業高校遺跡	諫早市	⑨　武辺城跡	佐世保市
④　森岳城跡	島原市	⑩　辻ノ尾遺跡	松浦市
⑤　八幡山城跡	松浦市	⑪　麻生瀬遺跡	川棚町
⑥　中ノ瀬遺跡	松浦市	⑫　原の辻遺跡	壱岐市

① 高城（たかじょう）跡（隣接）

所 在 地	諫早市東小路町	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	長崎県立諫早高等学校附属中学校棟建設工事	**調査面積**	16㎡
調査期間	平成21年８月22日～９月８日	**調査区分**	試掘調査
報 告 書	平成23年３月刊行	**処　　置**	本調査

立　地

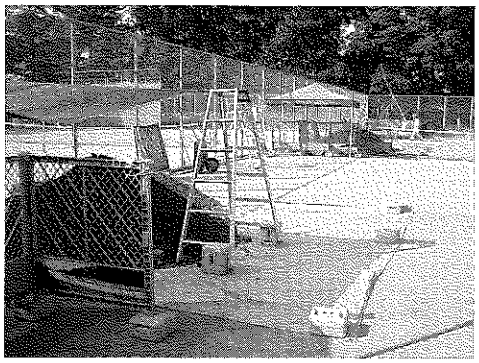
高城跡は、室町時代から戦国時代にかけての山城跡でその後江戸時代にかけては諫早城として諫早藩の拠点として機能している。県立諫早高校はその東側低地部にあり、城下町の一部と考えられていた。また、1864（文久４）年に作成された「諫早城下図」では御屋敷として描かれており、校区内にある現存する池（御書院）の位置と見比べた場合、この地に諫早家領主の屋敷跡が存在することが予想されていた。



高城跡（隣接）位置図（S=1/25,000）

調　査

調査は、中学校棟建設予定地であるテニスコート内に、2m×2mの４ヶ所の試掘坑を設定し掘り下げを実施した。各調査区の上層からは近代の瓦やガラスなどが含まれており、調査当初はかなり乱れた地形であることが予想された。しかし下層に行くにつれて近代の遺物の混在も少なくなり、地山や基盤層部分では室町時代から江戸時代を中心とする遺構や遺物包含層が存在することが明らかとなった。特に御書院に近い第１試掘坑からは９基の柱穴が確認され、埋土からは土師器片や陶磁器片などが多数出土した。また、埋土が異なる柱穴が見られたため、いくつかの時期にまたがる建物跡があることが推測された。第２試掘坑では幅約1.3mの溝跡が検出され、湧水があることから絵図に見られる御書院から続く溝の可能性が示唆された。遺物は古くは須恵器から青磁・白磁など、新しくは幕末の陶磁器や瓦片などと多岐にわたり出土している。

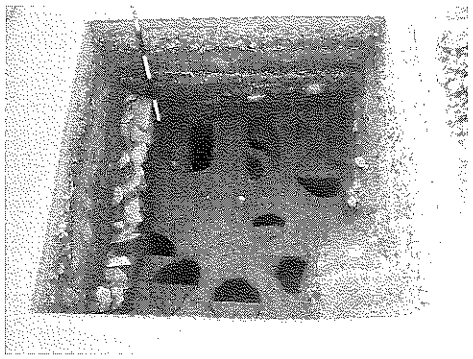


調査風景

まとめ

試掘調査の結果、絵図に描かれた御屋敷跡とそれより以前の遺構や遺物が確認されたことから、校舎が建設される部分について本調査を実施することとした。また、遺跡として諫早家の御屋敷跡の敷地に間違いが無く関連する遺構が残存することから、「諫早家御屋敷跡」として新たな周知の埋蔵文化財包蔵地と認定することとした。

【調査担当：寺田・川淵】（文責：寺田）



第１試掘坑

② 諫早家御屋敷跡（いさはやけおやしき）

所 在 地　諫早市東小路町

調査主体　長崎県教育委員会

調査原因　長崎県立諫早高等学校附属中学校校舎建設工事

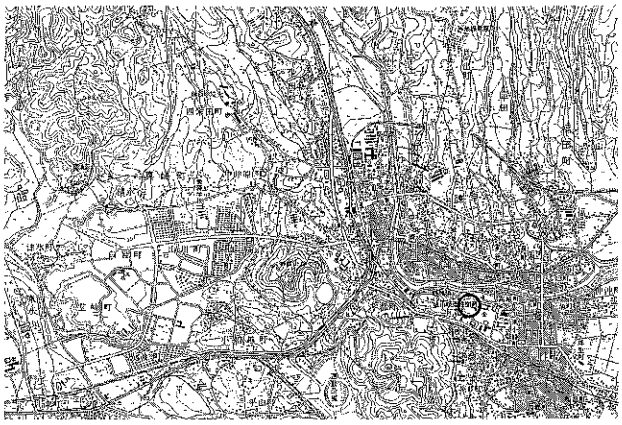
調査面積　本調査　754㎡

調査期間　本調査　平成21年11月30日～平成22年２月４日

報 告 書　『諫早家御屋敷跡』(2011)長崎県埋蔵文化財センター調査報告書　第２集

立　地

遺跡は本明川の南岸に位置し、現在は長崎県立諫早高等学校の敷地となっている。遺跡の西には西郷氏が築いた高城跡がある。



諫早家御屋敷跡位置図（S=1/25,000）

調　査

当初は周知の埋蔵文化財包蔵地でなかったが、1864（文久４）年に作成された「諫早城下図」に御屋敷として描かれていることから、工事に先立ち試掘調査を実施した。その結果、すべての調査区から室町時代から江戸時代にかけての遺構や遺物包含層が確認されたため、新たに「諫早家御屋敷跡」として周知することとなった。

本調査では、近代に構築されたと思われる石組の側溝(SDH01) を検出した。また近世に造成されたと思われる堆積層には溝（SD02・04・06・07・08・10）や礎石(SJ01)、井戸(SE01)や不明遺構(SX01・02)、および第１期面検出ピット群(SP001~200)を検出した。近世から近代の堆積層をさらに掘り下げると、調査区南側で粘土質の、東側では砂礫層の安定した堆積を確認し、その上面には中世末から近世初頭の遺構である溝(SD03・05・08・09・11・12・13)や井戸(SE02)、不明遺構(SX03)や第２期面検出ピット群(SP501~684)を確認した。

まとめ

諫早家の屋敷は大正時代にその敷地を旧制県立中学校へ寄付しており、近代も存続していたことがわかる。そのため石組の側溝は屋敷の最終段階の遺構である。中世末から近世初頭にかけては、諫早地方の領主が西郷氏から龍造寺（後の諫早氏）に変わるという、極めて画期的な時期に相当する。この時期に構築され、かつ埋没した遺構が５号溝（SD05）や土師器溜まりで、今も残る諫早家御屋敷の庭園池との関連性が想定されるとともに、西郷時代につくられた可能性もある。また造成土からであるが、越州窯産青磁が出土したことは調査地の近辺に古代の施設が存在した可能性を指摘できる。その他には瓦当に上り藤文様が施された陶質施釉瓦、同じく上り藤文様が描かれる肥前系染付など諫早家に関連する遺物が出土している。

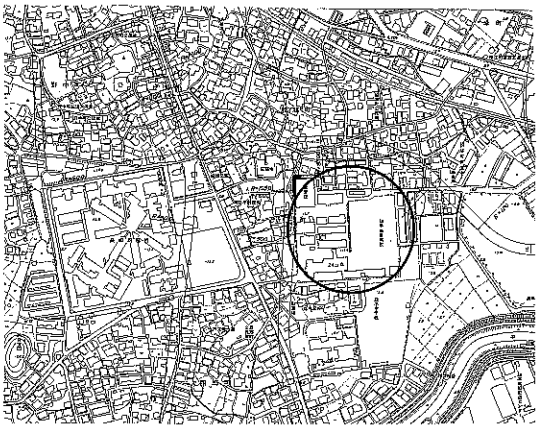
【調査担当：林・平田】(文責：林)

③ 諫早農業高校遺跡（いさはやのうぎょうこうこう）

所 在 地	諫早市立石町1003	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	長崎県立諫早農業高等学校第１体育館改築工事	**調査面積**	13㎡
調査期間	平成22年２月15日～２月18日	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行なし	**処　　置**	工事立会

立　地

遺跡は埋津川中流域の左岸に立地する。明治39年の校舎建設時に弥生時代の甕棺や細形銅剣が出土したといわれている。当該地周辺には田井原条里遺跡や、沖城跡など古代から中世にかけての遺跡が分布する。



諫早農業高校遺跡位置図（S=1/25,000）

調　査

範囲確認調査に着手する前に、文献等の調査を諫早市教育委員会文化課の協力のもと実施した。諫早農業高校遺跡の近世から近代における土地利用は、『諫早城下図』および明治初頭に作成された字図（地籍図）から田畑であったことが窺える。また字図に見る諫早農業高等学校敷地は周囲の地割りとは異なり方形で、中世における船越氏の居館跡であった可能性が指摘できる。また周辺住民への聞き取り調査から、工事予定地が以前（現在の第１体育館が建設される前）は農業高校の養蚕実習で使用された桑畑として傾斜地に営まれていたという情報を得た。

範囲確認調査では、現存の第１体育館西側および北側に試掘坑を合計13㎡設定した。南側から第１トレンチ（1m×2m）、第２トレンチ（1m×5m）、第３トレンチ（1m×5m）、第４トレンチ（1m×1m）と呼称することにする。第１トレンチは0.4mほど造成土を掘り下げた標高8.2mで平坦に削平されたと推測される地山面を検出した。調査区西側には隣接する市道建設または生け垣植樹の際に掘削されたと思われる撹乱が見られた。第２トレンチは0.6mほど造成土を掘り下げた標高7.9mで平坦に削平されたと推測される地山面を検出した。第３トレンチは0.7～1mほど造成土を掘り下げた標高7.7～7.4mで地山面を検出した。第１～２トレンチとは異なって平坦とはならず、かなりの凹凸が認められるとともに、大型の礫や岩なども混入していた。地山面は凹凸となりながら、北側へ傾斜する様相を見せた。第４トレンチは1.5mほど造成土を掘り下げた標高6.8mで地山面らしき硬質の土層を検出したが、掘削面積に制限があったのと、土壁崩落の恐れもあったため、掘り下げを中断した。

出土した遺物は近現代のものが多く、一部に近世陶磁器が含まれたが、全て造成土からの出土であった。

まとめ

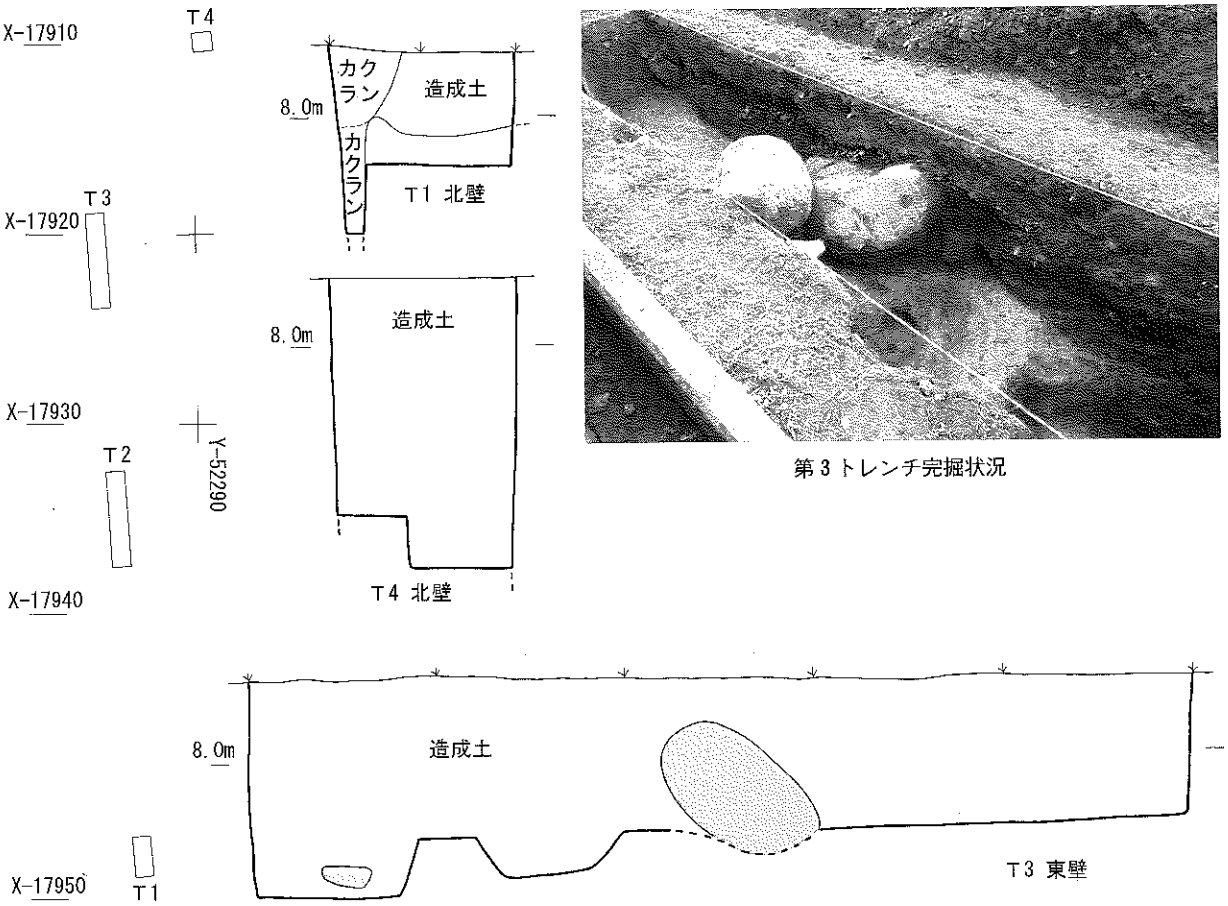
本調査は、工事予定地内での調査が部分的にしか実施できない（第４トレンチのみ）という制約があったが、おおよそ工事予定地の状況を推定する情報が得られたと思われる。結論からいえば、工事予定地は現存の第１体育館建設時の造成工事によって地山面まで掘削された可能性が高く、その結果、遺構残存の可能性は極めて低いと判断される。その根拠として、全ての調査区で造成土が厚く堆積しており、遺物包含層および遺構が確認されなかったこと。遺物の出土が造成土からのみで、しかも近世より古い時期の資料が確認されなかったことがあげられる。

【調査担当：林・川淵】（文責：林）

諫早農業高校遺跡周辺字図
------ は高校の範囲　アミは方形の地割り

調査区	Point	X	Y	Z
T1	①	-17946.691	52287.331	8.528
	②	-17948.681	52287.465	8.480
	③	-17948.733	52286.492	8.604
	④	-17946.739	52286.337	8.583
T2	①	-17937.636	52285.419	8.501
	②	-17932.680	52285.089	8.470
	③	-17937.558	52286.398	8.482
	④	-17932.606	52286.034	8.445
T3	①	-17918.800	52285.095	8.447
	②	-17923.816	52285.440	8.450
	③	-17923.893	52284.439	8.416
	④	-17918.899	52284.080	8.468
T4	①	-17910.396	52291.034	8.350
	②	-17910.465	52290.016	8.347
	③	-17909.483	52289.972	8.261
	④	-17909.453	52290.964	8.212

調査区座標一覧



第3トレンチ完掘状況

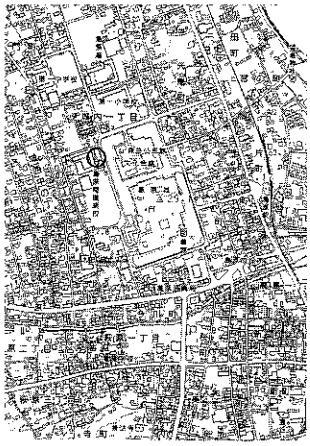
調査区設定図（1／400）および土層断面図（1／40）

④ 森岳城跡（もりたけじょう）

所 在 地	島原市城内1丁目1213番地	**調査主体**	長崎県埋蔵文化財センター
調査原因	県立島原商業高等学校特別教室棟改築工事	**調査面積**	14.55㎡
調査期間	平成22年３月15日～３月18日	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行なし	**処　　置**	調査後工事

立　地

森岳城跡は島原市のほぼ東部の市街地中心に位置する。遺跡は島原城と武家屋敷を含む城下町からなり、島原商業高校は城の西堀に接する家老屋敷跡と推測されている。過去には隣接する島原高校の体育館および浄化槽工事に伴う調査において、三の丸の建物跡や堀跡など、また貿易陶磁器等多数の遺物が出土している。



森岳城位置図（S=1/25,000）

調　査

今回の調査は長崎県立島原商業高等学校特別教室棟の改築工事に伴うものである。同高校は森岳城跡として周知されており、建設予定地は『嶋原藩士屋敷図』によると、森岳城本丸と二の丸を囲む堀の北西隣、近世の武家屋敷街の一角にあたる。平成14年と15年に長崎県教育委員会により３回（島原高等学校敷地内）、平成18年に島原市教育委員会により１回（島原法務総合庁舎敷地内）の計４回の調査が行われている。既往の調査では、在地土豪の島原氏時代地割や、森岳城築城時の城割に沿ったとみられる溝や建物跡、石組みの地下室など多くの遺構のほか、有馬氏全盛期から各時代の統治者に係わるとみられる15世紀～17世紀後半以降の遺物が確認されている。今回の範囲確認調査では旧特別教室棟の基礎構造部位置を避け跡地内の北側および南側に試掘坑を合計14.5㎡設定した。北側を第１トレンチ（2m×4m）、南側を第２トレンチ（2.5m×2.5m）と呼称することにする。第１トレンチは1.5mほど造成土を掘り下げた標高16.4mで風化した安山岩からなる岩盤地山面を検出した。調査区東西両側は旧特別教室棟建設時の基礎工事による撹乱が見られた。第２トレンチは1.5mほど造成土を掘り下げた標高16.6mで風化した安山岩からなる岩盤地山面を検出した。出土した遺物は近現代の遺物が少量のみで、わずかに近世陶磁器も見られたが、全て造成土からの出土であった。

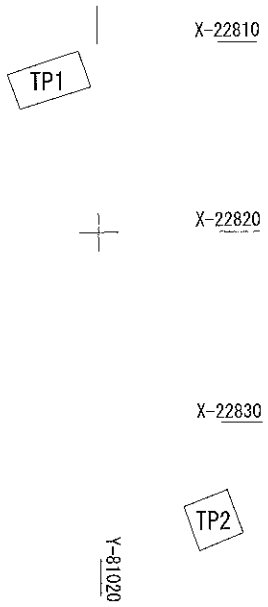
まとめ

今回の工事区域は旧特別教室棟（もしくは島原商業高校創立以前の島原女学校建設時）の造成工事によって地山面まで掘削された可能性が高く、遺構残存の可能性は極めて低いと判断される。その根拠として、両調査区で造成土が厚く堆積しており、遺物包含層および遺構が確認されなかったこと、わずかな遺物の出土が造成土からのみで、しかも近世末期より古い時期の資料が確認されなかったことがあげられる。加えて旧特別教室棟設計図面からみられる基礎工事面積と今回の調査面積及びトレンチ断面調査結果から、工事面積500㎡のうち大部分は地山面まで同様の撹乱を受けていると推測される。

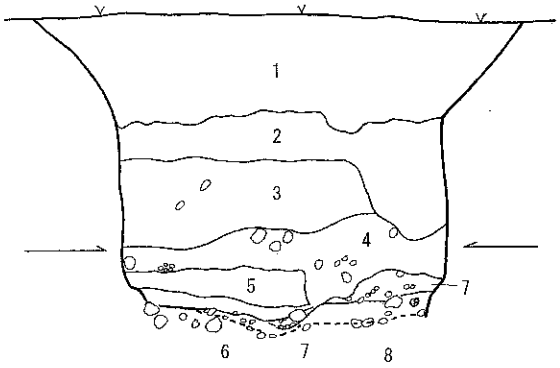
【調査担当：林・河合】（文責：河合）

調査区	Point	X	Y	Z
T1	①	-22810.353	81018.997	17.507
	②	-22812.201	81019.672	17.488
	③	-22813.419	81015.898	17.487
	④	-22811.566	81015.196	17.586
T2	①	-22833.604	81026.762	17.646
	②	-22835.995	81027.583	17.631
	③	-22836.898	81025.253	17.712
	④	-22834.542	81024.420	17.691

調査区座標一覧



調査区配置図



第２トレンチ　東壁断面図

第２トレンチ　東壁断面写真

第２トレンチ　東壁土層観察表

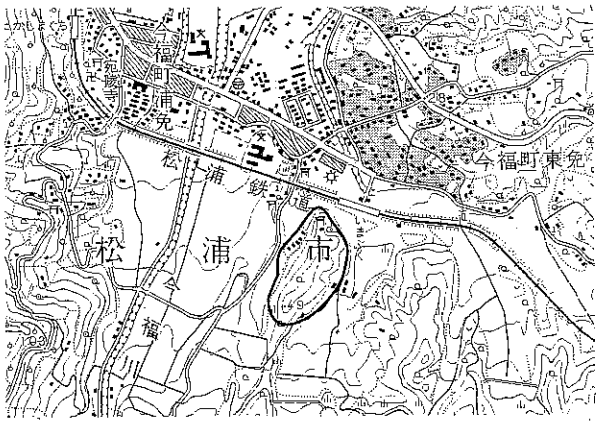
1　バラス　灰～白色
2　近代ゴミ含む　暗褐色砂泥～泥砂　小礫まじり
3　近代ゴミ含まない　暗褐色砂泥～泥砂　小礫まじり
4　近代ゴミ含まない　5cm前後大礫がまじる　砂泥～泥砂
5　褐灰色砂泥　小礫まじり
6　暗灰～黒褐色砂泥　小礫まじり
7　黄褐色粘土～シルトまじり礫層　　風化が進み礫は5cm以下　安山岩
8　黄褐色粘土～シルトまじり礫層　　上礫に比べると礫大が大きく5～10cm大
※　小礫＝1cm以下
※　3～6に19世紀後半の遺物が微量ながらまじる

⑤ 八幡山城跡（はちまんやまじょう）

所 在 地	松浦市今福町東免字八幡山ほか	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	一般国道497号線建設工事	**調査面積**	8,257㎡
調査期間	平成21年６月19日～平成22年３月15日	**調査区分**	本調査
報 告 書	平成22年度刊行予定	**処　　置**	調査後工事

立　地

当該遺跡は、松浦市東端部の今福町に所在する。国見山系から連なる尾根筋が北に向かって舌状に突出する先端部の砂礫台地上に立地している。城域は南北約400m、東西約200m、ほぼ南北方向に沿って尾根筋が伸び、標高約40～47m、比高約40mの丘陵状を呈している。現在、海岸線は近世以降の埋め立てによって当該遺跡から約600mほど北に離れているが、それ以前は当該遺跡の北端まで湾が侵入していたと考えられる。



八幡山城跡位置図（S=1/25,000）［今福］

調　査

調査区は、座標系に合わせて南北を主軸とする100mの大グリッドを設定し、東西を１～９、南北をＡ～Ｅと符合し、さらに大グリッド内を20m方眼で区画して中グリッドを設定し、１～25の番号を付した。なお、便宜上、遺跡の東側斜面を東部傾斜地、山頂部を鞍部、西側斜面を西部傾斜地、調査区西側の平地部を山麓とした。調査は、東部傾斜地・鞍部・西部傾斜地については、すべて人力掘削で行い、腐植土を除去した後、崩落土を掘削した。山麓については重機掘削後に精査を行った。

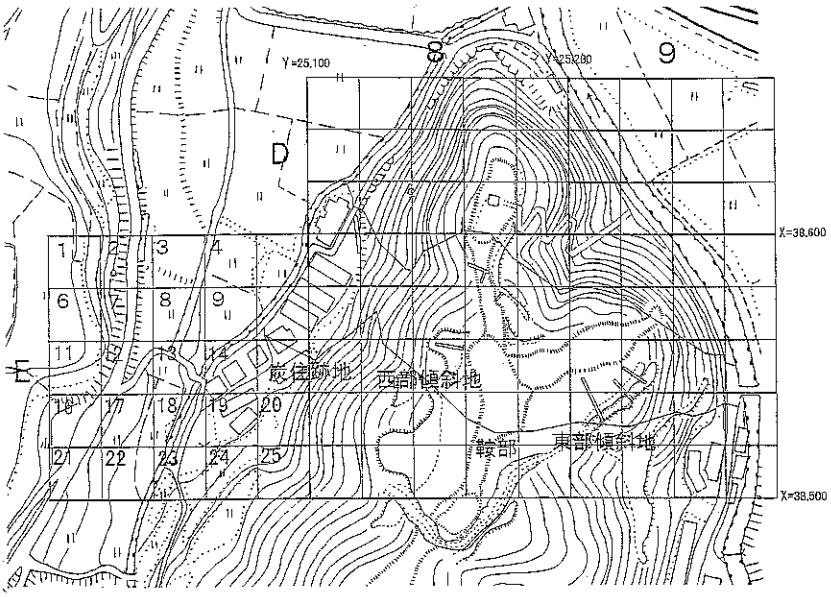
遺構は東部傾斜地及び西部傾斜地において尾根筋を取囲むように配置された切岸を検出した。切岸は傾斜地を利用して造成され、いずれも曲輪に連続しない特異な形態であった。

遺物は旧石器時代～弥生時代・中世及び近世の遺物を確認したが、主体を占めるのは中世の遺物であった。備前焼の擂鉢、防長系の足鍋・擂鉢、白磁、青磁、青花、陶器碗等が出土した。また、崩落土掘削中、広範囲にわたり縄文時代石製品の出土を確認したことから、縄文時代の遺物包含層の残存が期待されたが、遺構面および遺物包含層は確認されなかった。山麓においては、遺構は確認されなかったが、住宅基礎の埋土から拳大の黒曜石の石核が出土した。

まとめ

八幡山城跡は、縄張り調査等の結果から堀切より南側の区域（南城）と今回の調査対象地である北側の区域（北城）に分けられる。南城は曲輪と切岸を中心とした当時の一般的な形態を呈しており、同一丘陵上に性格が異なる２つの城郭跡の残存を確認できたことは大きな成果といえよう。

【調査担当：杉原・荒井・石橋・矢葺・川上】（文責：荒井）



調査区およびグリッド配置図（S=1/3,000）

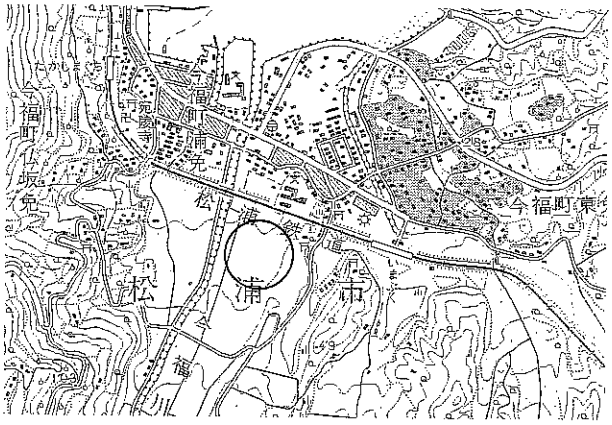
切岸完掘状況

⑥ 中ノ瀬（なかのせ）遺跡

所 在 地	松浦市今福町浦免字中ノ瀬　ほか	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	西九州自動車道伊万里松浦道路建設工事	調査面積	12,759㎡
調査期間	平成21年６月12日～平成22年３月16日	調査区分	本調査
報 告 書	平成23度刊行予定	処　　置	調査後工事

立　地

当該遺跡は、松浦市北東部、東に佐賀県伊万里市と接する今福町に所在する。北流する今福川に沿って南の石倉山裾部から伸び出す丘陵と、今福川によって形成された沖積平野、それを望む微高地上の水田部、標高約10m～約40mに位置し、東西約300m、南北約550mの南北に細長い範囲に展開する。現在、海岸線は近世以降の埋め立てによって、当該遺跡から約600mほど北に離れているが、それ以前は当該遺跡の傍まで湾が進入していたと考えられる。



中ノ瀬遺跡位置図（S=1/25,000）［今福］

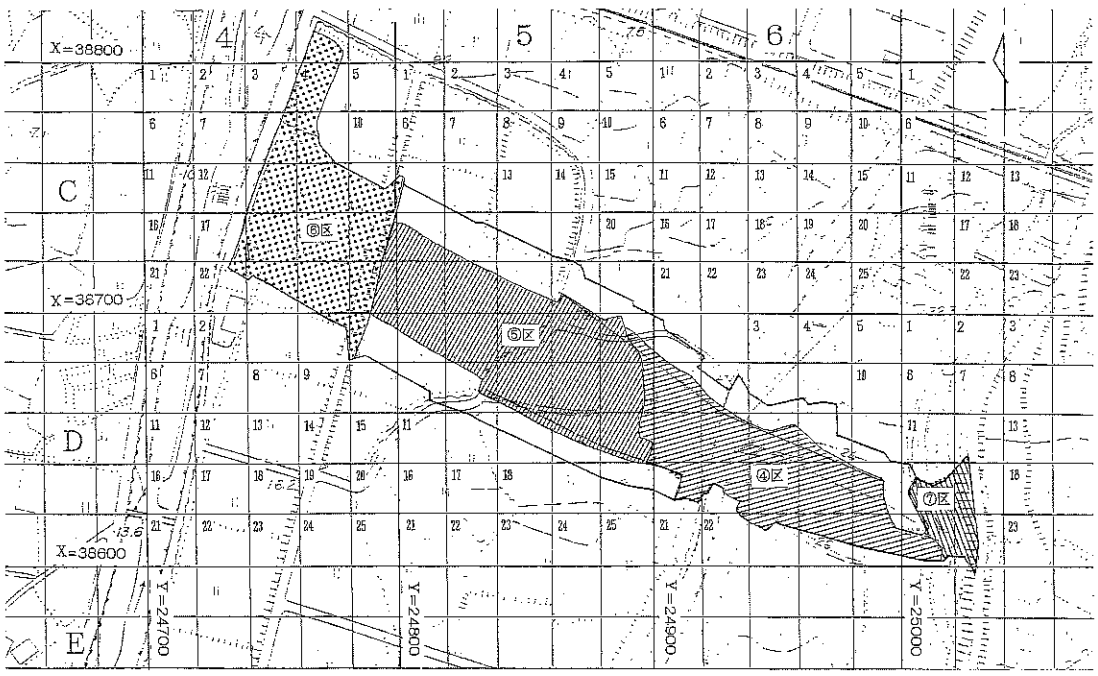
調　査

調査区は、座標系に合わせて南北を主軸とする100m方眼の大グリッドを設定し、東西を１～９、南北をＡ～Ｅと符号し、さらに大グリッド内を20m方眼で区画して中グリッドを設定、１～25の番号を付した。また便宜上、遺跡の東端傾斜部を⑦区、丘陵部を④区、中央平地部を⑤区、西平地部を⑥区とした。

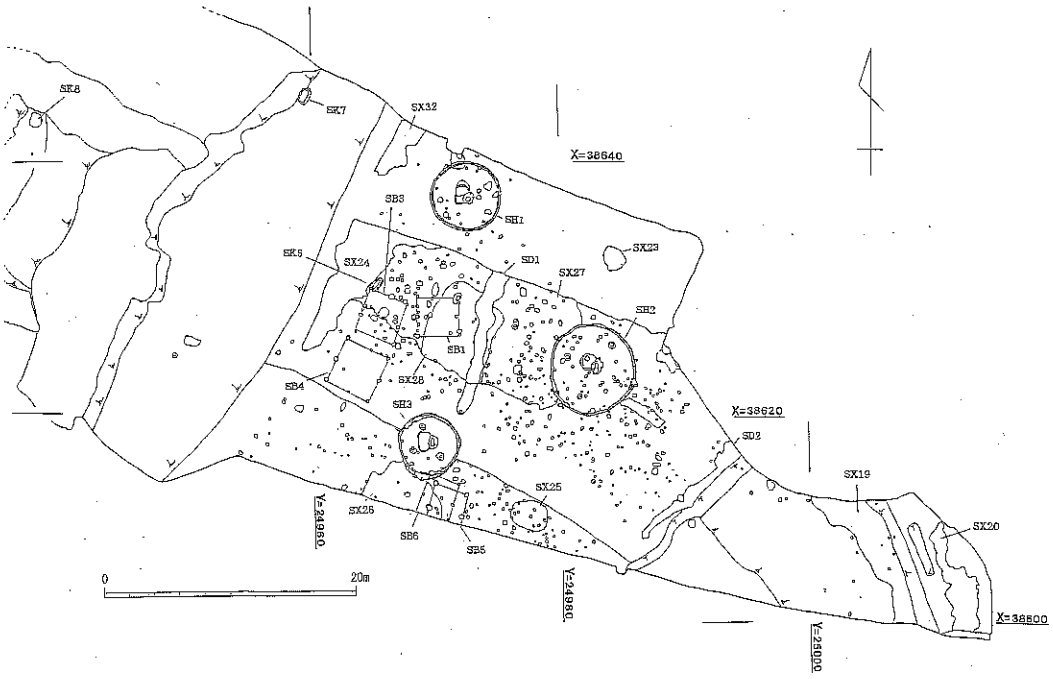
④区

遺構は掘立柱建物跡（ＳＢ）、溝状遺構跡（ＳＤ）、竪穴式住居跡（ＳＨ）、土壙跡（ＳＫ）、柱穴跡（ＳＰ）、性格不明遺構・遺物包含層（ＳＸ）などを確認した。ＳＢは５棟確認した。いずれも時期は不明である。ＳＢ１・３・４の規模は、それぞれ梁行１間×桁行１間、梁行２間×桁行１間、梁行２間×桁行２間である。ＳＢ５・６は調査区外に続くため、柱の本数、柱間は不明である。ＳＨは３基確認した。弥生時代中期のものと考えられ、円形プランを呈し、規模は直径4.8m～7.3mを測る。そして中央に炉跡・土壙跡、その両側には柱跡が２本で構成されている。またＳＨ１は、（新）と（古）の２時期の炉跡と（古）において周壁溝跡、ＳＨ３では周壁溝跡を確認した。ＳＫは３基確認した。中世～近世の墓壙跡と考えられる。ＳＫ６は隅丸長方形プランを呈し、土層観察により木棺の使用が想定される。ＳＫ７は長方形プランを呈するが、西側は大きく削平を受けている。ＳＫ８は楕円形プランを呈する。埋土はブロック状土や自然礫が多く混入する為、改葬が行われたと考えられる。ＳＰは約750基確認した。この内、117基から遺物が出土し、埋土色は大きく４種類に分けられる。ＳＸは16箇所確認した。ＳＸ19は土層堆積および出土遺物より、中世以降の水田跡と考えられる。また、

ＳＸ23・25・26・33～35は不定形なプランで検出した。土層堆積より地層の横転が認められ、倒木痕と想定される。遺物は21,786点出土した。その多くが現水田層より出土し、縄文時代の石器、弥生土器、須恵器、土師器、瓦質土器、貿易陶磁器、中世の石製品、国産陶器、近世陶磁器を確認した。遺構内の遺物は、ＳＢ１・３・４の柱穴跡より縄文時代の石器、弥生土器が出土した。ＳＨ１～３より弥生土器、黒曜石製石器、磨石が出土し、出土遺物より弥生時代中期頃と考えられる。ＳＫ７より胎土目の灰釉陶器皿が出土し、時期は17世紀初頭と考えられる。ＳＰより縄文土器・石器、弥生土器、土師器、貿易陶磁器、近世陶磁器を確認した。



平成21年度中ノ瀬遺跡緊急発掘調査調査区及びグリッド配置図（S=1/3,000）



平成21年度中ノ瀬遺跡緊急発掘調査④区遺構配置図（S=1/600）

⑤区

遺構は旧河道（ＳＲ）を１条確認した。ＳＲ１は南西から北東にむけて傾斜し、現存する規模は長さ6.0m、最大幅5.5mを測る。遺物は726点出土した。現水田層より縄文時代の石器、弥生土器、土師器、瓦質土器、貿易陶磁器、国産陶器、近世陶磁器を確認した。ＳＲ１より縄文時代の石器、弥生土器、須恵器、中世の石製品、近世陶磁器を確認した。

⑥区

遺構は確認できなかった。遺物は現水田層より3,994点出土した。内訳は、縄文時代の石器、弥生土器、土師器、瓦質土器、中世の石製品、貿易陶磁器、国産陶器、近世陶磁器である。

⑦区

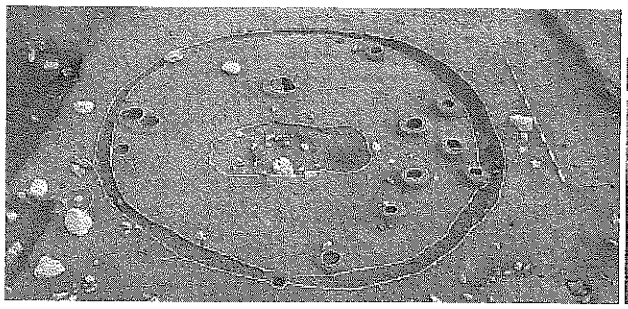
遺構は確認できなかった。遺物は現水田層より60点出土した。内訳は、縄文時代の石器、弥生土器、土師器、貿易陶磁器、近世陶磁器である。

まとめ

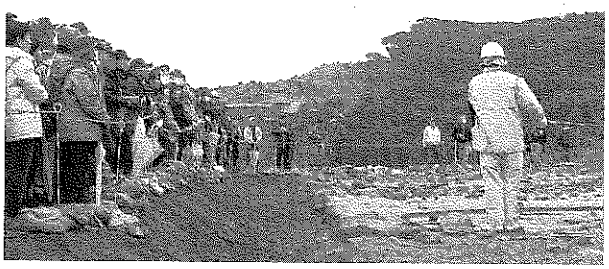
今年度の調査において確認した遺物は総点数26,642点（コンテナ134箱）であり、内訳は縄文時代の遺物5,178点、弥生時代の遺物8,248点、古墳時代の遺物41点、古代の遺物9点、中世の遺物2,838点、近世の遺物10,328点であった。２次的でわずか１点の出土ではあるが、縄文時代後期と考えられる土器片も確認でき、出土した多くの縄文時代の石器ともに遺跡環境から考えて、調査区近辺において縄文時代に生活の場があったことが裏付けられた。

遺構について特筆すべきは、円形プランの竪穴式住居跡３基の検出である。円形プランの竪穴式住居跡は、長崎県北部において白井川遺跡（東彼杵町）・四反田遺跡（佐世保市）・里田原遺跡（平戸市）・馬込遺跡（平戸市）につづき５例目で、松浦市域では初例である。但し、当該遺跡のものは３基とも床面中央に土壙を伴った炉跡が確認されたが、これは円形プランのものに限らず、これまで長崎県内での類例が確認されていない、大変貴重な発見であった。時期的には、遺構内出土の遺物等により弥生時代中期のものと考えられる。また、今回の住居跡の発見により、当該遺跡東部の丘陵上に弥生時代中期の居住域が広く展開する可能性も高くなった。今後とも様々な機会を捉えた発掘調査の実施とその結果が期待される。

【調査担当：杉原・江上・柴田・半田・折原・福永】（文責：杉原）



平成21年度中ノ瀬遺跡緊急発掘調査検出竪穴式住居



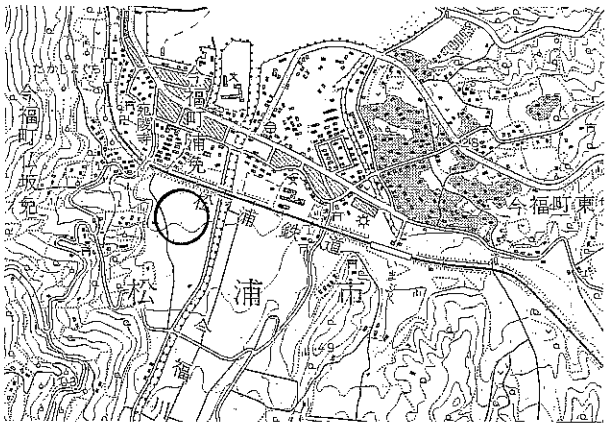
平成21年度中ノ瀬遺跡緊急発掘調査現地説明会風景

⑦ 今福（いまふく）遺跡（範囲確認調査）

所 在 地	松浦市今福町仏坂免字五百田　ほか	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	西九州自動車道伊万里松浦道路建設工事	**調査面積**	276㎡
調査期間	平成21年５月11日～平成21年６月４日	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	平成24度刊行予定	**処　　置**	本調査

立　地

当該遺跡は、松浦市北東部，東に佐賀県伊万里市と接する今福町に所在する。国見岳・人形石山・石倉山を源流に北流して伊万里湾に注ぐ、今福川が形成した沖積平野の水田地帯に展開する。東西約250m、南北約300mの範囲で、標高約6m～14m、北に向かって緩やかに傾斜する。現在、海岸線は近世以降の埋め立てによって、当該遺跡から約600mほど北に離れているが、それ以前は当該遺跡の付近まで湾が進入していたと考えられる。



今福遺跡位置図（S=1/25,000）［今福］

調　査

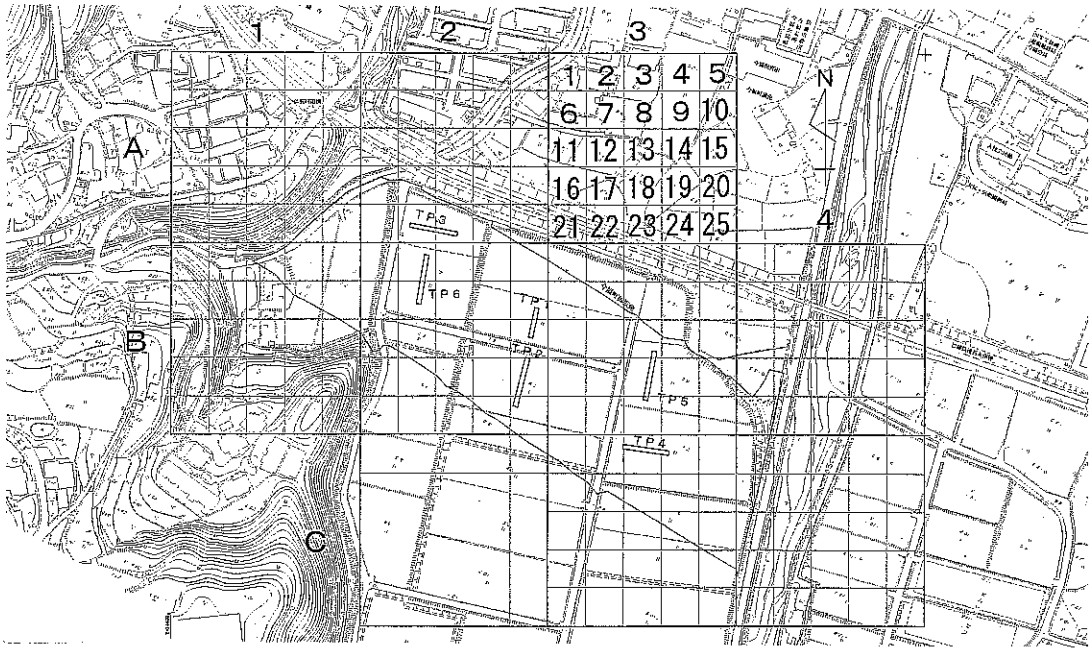
遺跡内の西九州自動車道建設工事に伴う調査対象地域に、東からＴＰ５（25m×2m＝50㎡）、ＴＰ４（24m×2m＝48㎡）、ＴＰ１（15m×2m＝30㎡）、ＴＰ２（25m×2m＝50㎡）、ＴＰ３（24m×2m＝48㎡）、ＴＰ６（25m×2m＝50㎡）合計276㎡を設置し、調査を実施した。

遺構は確認できなかったが、全てのＴＰから、旧今福川と考えられる旧河道跡が検出した。遺物は旧河道埋土層を中心に、弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器等が、合計1,543点、コンテナ８箱分出土した。時代別の内訳は、縄文時代21点、弥生時代761点、古墳時代284点、古代19点、中世142点、近世316点であり、弥生時代～古墳時代の遺物が全体の2/3を占める。特にＴＰ１・３からは、弥生時代終末期から古墳時代の遺物が集中的に出土した。

まとめ

河川改修により現在の今福川は、平地部に出てから海までほぼ直進するが、改修以前の河道は当該遺跡付近で大きく西側に彎曲していた。今回設置した６箇所のＴＰでは、いずれもその旧河道を検出し、ＴＰ毎に量的差異はあるものの、旧河道埋土層を中心にそれぞれ遺物が出土した。ＴＰ１・３は弥生時代終末から古墳時代の遺物を主体とする。これが、ＴＰの設置場所周辺の環境（近くに遺構面が存在するなど）によるものか、旧河道の時代の相違によるものか、ＴＰによる調査の限界により判明しない。また，遺構は残念ながら確認できなかった。しかし、当該遺跡緊急発掘調査対象地区内において、旧河道を介して広範に出土遺物が展開する可能性が判明したことは今回の範囲確認調査の大きな成果であった。

【調査担当：杉原・江上・柴田・矢葺】（文責：杉原）



平成21年度今福遺跡範囲確認調査試掘坑配置図（S=1/4,000）

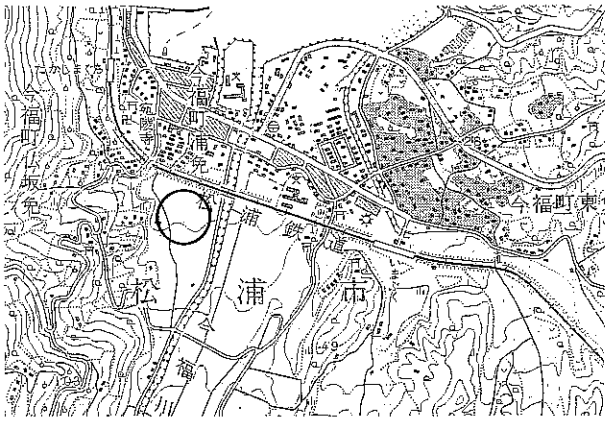
平成21年度今福遺跡範囲確認調査調査風景

⑧ 今福（いまふく）遺跡（緊急発掘調査）

所 在 地	松浦市今福町仏坂免字五百田　ほか	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	西九州自動車道伊万里松浦道路建設工事	**調査面積**	2,030㎡
調査期間	平成21年10月16日～平成22年３月16日	**調査区分**	本調査
報 告 書	平成24度刊行予定	**処　　置**	調査後工事

立　地

当該遺跡は、松浦市北東部、東に佐賀県伊万里市と接する今福町に所在する。国見岳・人形石山・石倉山を源流に北流して伊万里湾に注ぐ、今福川が形成した沖積平野の水田地帯に展開する。東西約250m南北約300mの範囲で、標高約６m～14m、北に向かって緩やかに傾斜する。現在、海岸線は近世以降の埋め立てによって、当該遺跡から約600mほど北に離れているが、それ以前は当該遺跡の付近まで湾が進入していたと考えられる。

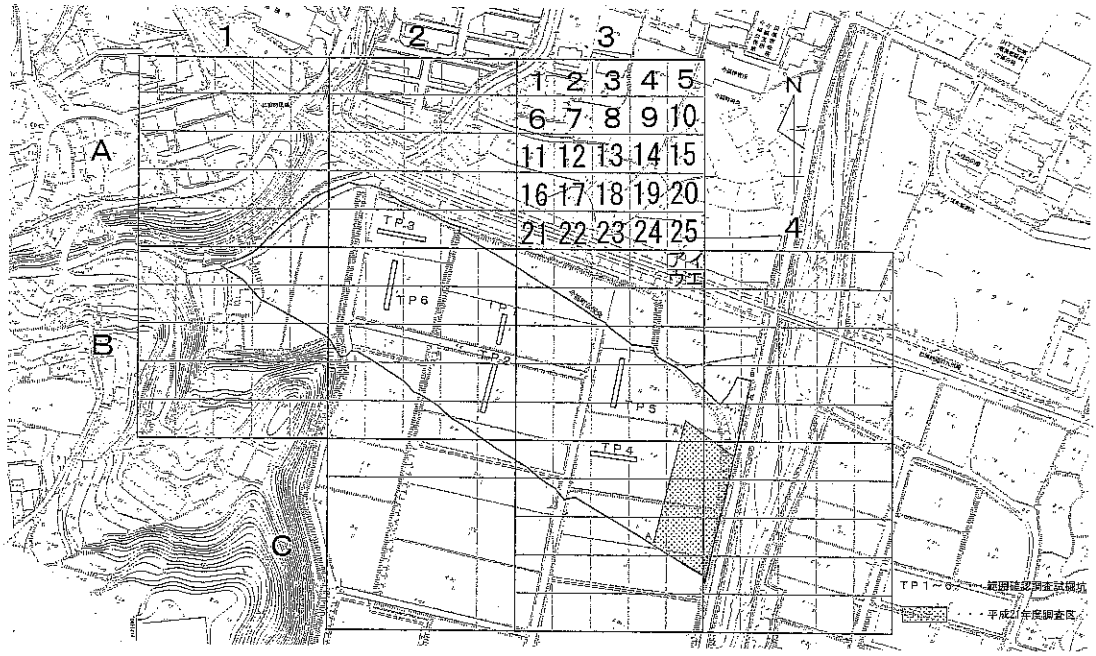


今福遺跡位置図（S=1/25,000）［今福］

調　査

平成21年度の調査は、今福川の西隣、当該遺跡の東端部2,030㎡について実施した。そのうち、調査完了面積は1,800㎡、次年度以降の継続調査面積（表土剥ぎのみの面積）は230㎡である。調査区は、座標系に合わせて南北を主軸とする100m方眼の大グリッドを設定し、東西を１～４、南北をA～Cと符号した。大グリッド内は20m方眼で区画して中グリッドを設定、１～25の番号を付した。さらに中グリッド内は10m方眼で小グリッドを設け、ア～エと符号した。耕作土と圃場整備時の整地層、一部の旧河道埋土層は人力で掘削を行い、客土層および人力掘削しなかった旧河道内埋土層や礫層は重機で掘削した。

遺構は確認できなかったが、暗灰色粘土層（第26層）により埋没した11世紀に特定される今福川旧河道を１条検出した。その中央部は礫によって埋没した新しい河道に切られおり、さらにその上面も、より新しい河道により切られていた。そのため、平面的には河道の規模や範囲の特定はできず、立ち上がりも確認できなかった。しかし、断面土層の観察により、暗灰色粘土層がほぼ調査区の全域にわたって展開していたと考えられる。遺物は総点数1,113点が出土した。時代別内訳では、縄文時代216点、弥生時代７点、古墳時代３点、古代９点、中世177点、近世701点である。層位別では現水田層から842点出土した。その下位層からは271点出土した。そのうち、第26層からは245点が出土し、縄文石器、弥生土器、須恵器、黒色土器、土師器、貿易陶磁器、滑石製石製品等を確認した。特に11世紀代の遺物が多く、残存状況も良好であった。



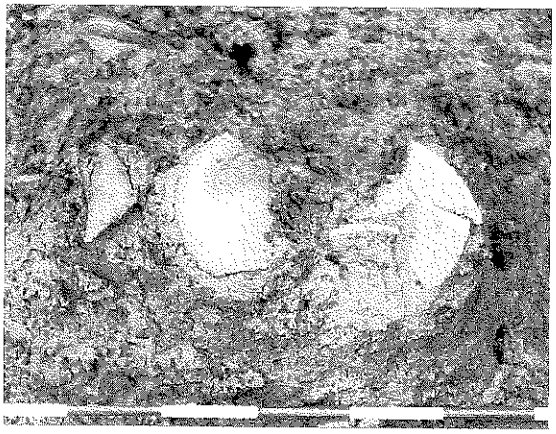
平成21年度今福遺跡緊急発掘調査調査区及びグリッド配置図（S=1/4,000）

まとめ

今福遺跡は、長年にわたり流路を変遷しながら埋没した、河川改修以前の今福川旧河道跡で構成されている。今福川旧河道は当該地区で大きく西に彎曲する。今年度の調査区は、現在の今福川に隣接し、当該遺跡の東端部を南北に長く切り取る形となった。南北方向の断面は、地質学でいう鱗状堆積を呈する。今回の調査では、残念ながら遺構は確認できなかったが、出土遺物から11世紀に特定できる河道跡を１条確認した。範囲確認調査でも、時代が特定できる河道跡を確認しているが、言うまでもなく、前近代において河川が地域の生活環境に与えた影響は大きく、時代ごとの河道跡の確認は重要である。また，条件が整い安定した環境が得られれば、旧河道埋土上に生活が営まれる場合もあり、今後の調査の進展が注目される。

【調査担当：杉原・半田・川上・浦川】（文責：杉原）

平成21年度今福遺跡緊急発掘調査調査風景



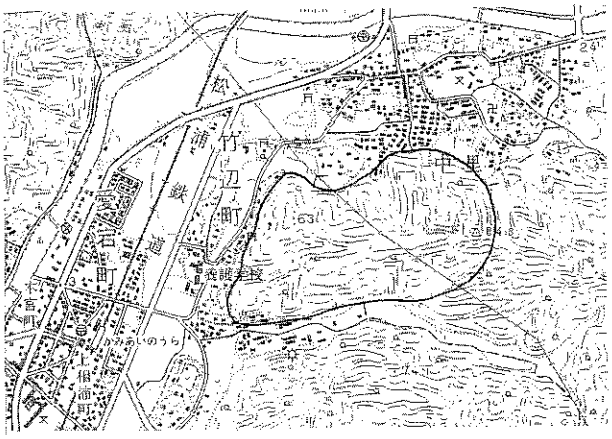
平成21年度今福遺跡緊急発掘調査遺物出土状況

⑨ 武辺城跡（たけべじょう）

所 在 地	佐世保市竹辺町	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	一般国道497号西九州自動車建設	**調査面積**	599㎡
調査期間	平成21年５月27日～６月30日	**調査区分**	本調査
報 告 書	平成22年３月刊行済	**処　　置**	調査後工事

立　地

遺跡は佐世保市の北西部に位置し、東側背後には標高400ｍの「将冠岳」が聳えている。その山系の先端部にあたる標高約60ｍの山陵に立地している。本遺跡は、相浦川が形成した沖積地に隣接していて、河口までも3㎞程と海岸にとても近い。近世に干拓される以前は海が武辺城跡の近くまで湾入していた。

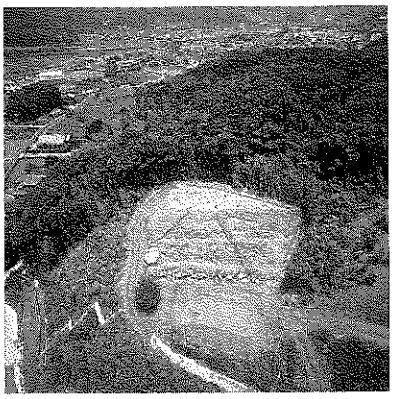


武辺城跡位置図[佐世保北部]（S=1/25,000）

調　査

武辺城跡は平成17～19年度までに20,143㎡が発掘調査された。

平成21年度は、西曲輪の一部の平成19年度に調査したＧ区の北東側599㎡の発掘調査を実施した。調査対象地は斜面部とその上の平場の一部となっている。



平成21年度調査区空撮写真

遺構は、調査区の平地部で複数の柱穴跡を検出したが、建物跡と認識出来る規則性は見られなかった。共伴遺物の出土も無かったことから時期については不明である。平地部の南端部辺縁では、砂岩や安山岩等の集石を確認した。元々この場所は、土塁状の高まりがあった場所を発掘してこの集石を確認したことから土塁の補強のために集石を基礎に置いた可能性もある。いずれの遺構においても共伴する遺物を認めることは出来なかった。斜面地では、岩盤が『切岸』状に成形されたような跡が見受けられ、その岩盤の上には造成を行って平面地を形成したような状況も認められた。

まとめ

今回の調査結果については、明らかに人の手が入った痕跡は捉えられるものの、出土遺物が認められなかったことから、詳細な時期については不明である。但し、この場所は武辺城跡の西端に位置し、防御上重要な場所だと言うことは推測される。

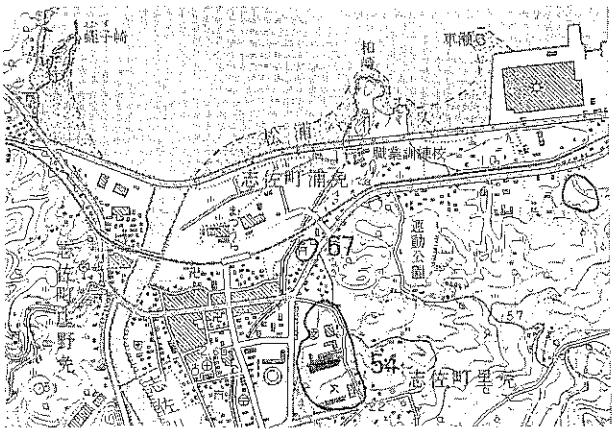
【調査担当：村川・浦川・西】（文責：村川）

⑩ 辻ノ尾遺跡

所 在 地	松浦市志佐町里免	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	長崎県立松浦高等学校校舎建替え新築工事	**調査面積**	20㎡
調査期間	平成21年11月16日～11月17日	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	調査後工事

立　地

辻ノ尾遺跡（54）は、松浦市街地を見下ろす志佐川の河岸段丘上に所在し、現在は松浦高校用地がその一角を占めている。最高所には志佐中学校があり、高校は中学校より一段下がった北側に位置している。松浦高校の建つ丘陵状の段丘から北側を眺めれば伊万里湾の先に城山（中世の山城）も望むことができる。



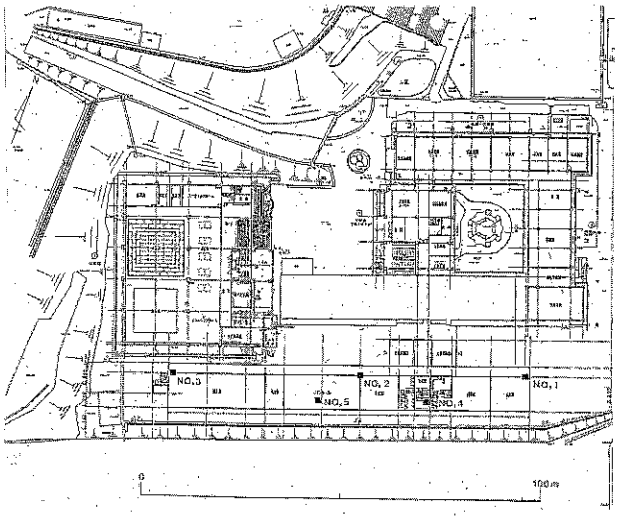
辻ノ尾遺跡位置図（S=1/25,000）［志佐］

調　査

今回の調査対象地となる校舎立替えの用に2×2mの試掘坑を3箇所設定し範囲確認調査を実施した。客土は重機により除去したが客土の下は岩盤もしくはその岩盤が風化した粘質土層で、文化遺物が確認できる包含層は残存していなかった。

この松浦高校と南側の志佐中学校の境界には2～3mの段差があり、高校の敷地を造成するときにかなり削られて岩盤まで露出したことが推測された。その後客土が施され現状に至ったものだろう。

2箇所の追加試掘坑を設定し全体的な様子を探ったが、状況は同じであり、包含層は残存していなかった。



試掘坑配置図

まとめ

上に述べたように、範囲確認調査の結果，遺跡の包含層は以前の敷地造成工事の時に削平されたようで、残存していなかった。よって、工事着工可であるが、工事に当たっては慎重に進めるよう指導した。

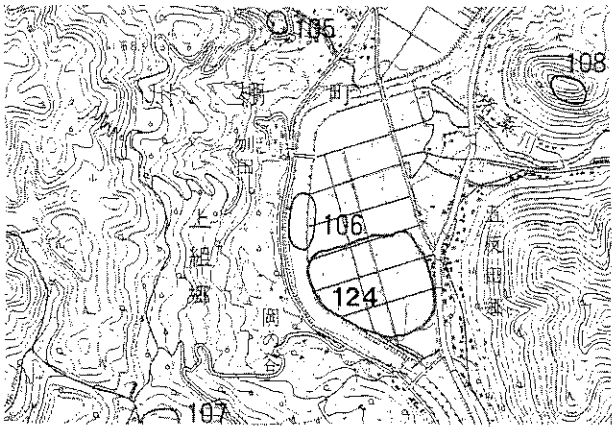
【調査担当：村川・西】（文責：村川）

⑪ 麻生瀬遺跡（あそぜ）

所 在 地	東彼杵郡川棚町五反田郷	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	農業基盤整備事業	**調査面積**	342㎡
調査期間	平成21年12月１日～12月15日	**調査区分**	立会調査
報 告 書	平成22年3月刊行済	**処　　置**	調査後工事

立　地

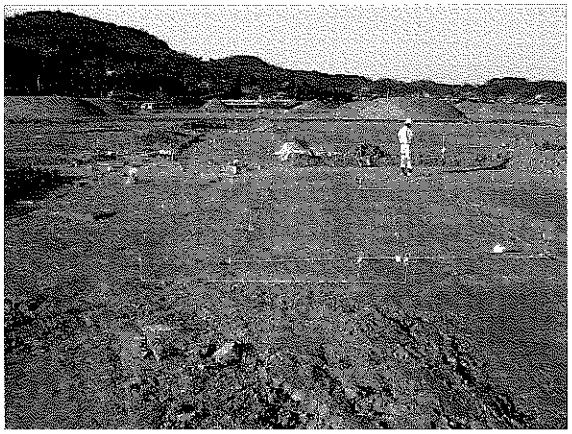
遺跡（124）が所在する川棚町は、大村湾に面し町内の中心を川棚川が蛇行しながら南北に流れている。この川棚川の源流は波佐見町までたどることが出来るが、その源流の場所を越えると、佐賀県の武雄と容易に行き来することが出来る。遺跡は川棚川の蛇行した部分の内側に形成された沖積地上に立地する。



麻生瀬遺跡位置図（S=1/25,000）［早岐］

調　査

事前協議により遺跡に係る圃場整備事業については、設計変更により表土から下は掘削しないとの取り決めがあったことから立会調査で対応した。11月24日に表土を剥いだところで石棺らしきものが発見されたとの連絡が川棚町教委からあり、翌11月25日に佐世保文化財調査事務所職員が立会調査を実施した。翌11月26日に協議を行い、現状を記録するためと、このまま埋め戻しても甕棺が損壊する恐れが考えられたことから、甕棺の実測取り上げを実施した。最終的には、弥生時代後期の甕棺墓２基、箱式石棺墓２基、掘立柱建物跡４棟を確認し、掘立柱建物跡から中国製の輸入陶磁器（白磁Ⅳ類；11世後半～12世紀前半）や滑石製の石鍋片等が表土を剥いだ段階で露出していたので記録し取上げた。


調査状況（掘立柱建物跡）

まとめ

今回の調査地点の南東部に、平成15年調査の弥生時代前期から中期前半の箱式石棺墓25基、甕棺墓３基が確認された墓地群と、北西部には弥生時代後期から古墳時代の箱式石棺墓等が検出された五反田遺跡が存在する等、弥生時代～古代末にかけての大規模な集落跡が考えられる。今回の立会調査では、表土直下の弥生時代～古代末の遺構の記録措置を行い、損壊が予測されるものだけ取上げ、その他は現状保存措置を取った。

【調査担当：副島・村川・西】（文責：村川）

報告書抄録

ふりがな	ながさきけんまいぞうぶんかざいちょうさねんぽう18
書名	長崎県埋蔵文化財調査年報18
副書名	平成21年度調査分
巻次	
シリーズ名	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第3集
編集者名	長崎県教育庁長崎県埋蔵文化財センター
編集機関	長崎県教育委員会
所在地	〒811-5322　壱岐市芦辺町深江鶴亀触515-1　Tel　0920-45-4080
発行年月日	西暦2011年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査機関	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町	遺跡番号					
高城跡(隣接)ほか　12遺跡								

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書 第３集

長崎県埋蔵文化財調査年報18

［平成21年度調査分］

平成23年３月31日

発　行　長崎県教育委員会
長崎市江戸町２－13

印　刷　㈲三省堂印刷所
長崎市幸町４-28